

授業計画書 2020

中部地区医師会立
ぐしかわ看護専門学校

成績評価方法

【成績評価方法】

・単位認定・進級及び卒業認定の成績評価は本校学生便覧の「履修規程」の評価基準で行う

評価	評点
優	80 点以上 100 点
良	70 点以上 80 点未満
可	60 点以上 70 点未満
不可	60 点未満

【大学等修学支援の下位 1/4 の評価方法】

・各科目の点数を GPA のポイントに置き換え算出。

評価点数	評価表示方法	ポイント
93 - 100	A	4.0
90 - 92	A-	3.7
87 - 89	B+	3.3
83 - 86	B	3.0
80 - 82	B-	2.7
77 - 79	C+	2.3
73 - 76	C	2.0
70 - 72	C-	1.7
67 - 69	D+	1.3
63 - 66	D	1.0
60 - 62	D-	0.7
59 - 0	F	0

各分野の考え方

基礎分野は、

専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱ・統合分野の基礎となり、看護を実践する人として科学的思考力・論理的思考力・コミュニケーション能力など、人間理解に必要な基礎的能力を身につける内容とする。基礎分野の広がりには人間育成を表す

専門基礎分野は、

専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱ・統合分野の支持科目と位置づけ、人間について身体的・心理的・社会的側面から理解し、人間の構造と機能、疾病の回復と促進を系統立てて考え、健康・疾病・障害に対する観察力や判断力を養うための内容とする。また、人々の生活をとおして健康や障害の状態に応じた支援をしていくために必要な知識・技術を学ぶ内容とする。

専門分野Ⅰは、

各看護学及び在宅看護論に共通する内容を学び、各看護学に発展、応用する基盤をつくる内容とする。コミュニケーション能力の強化およびフィジカルアセスメントを含め、看護師として理論的な判断力を養う内容とする。また、この分野は安全な看護技術を実践するために必要な技術演習を十分に行う。

専門分野Ⅱは、

基礎分野と専門基礎分野、専門分野Ⅰを基盤に、成人看護学・老年看護学・小児看護学・母性看護学・精神看護学において、成長発達段階やさまざまな健康状態の対象に対する看護の方法を学ぶ内容とする。精神看護学は人間の心の健康や発達など、ほかの看護学にも関連する科目として位置づける。

統合分野は、

在宅看護論と看護の統合と実践からなり、基礎分野・専門基礎分野・専門分野において学習した知識や技術を活用し、複合的・総合的な判断力や組織における看護実践方法などについて学ぶ内容とする。在宅看護論は、地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅での看護の基礎を学ぶ内容とする。看護の統合と実践では、これまで学んできた知識・技術・態度を統合して実践できる内容としている。

臨地実習は、

既習した知識と技術を活用し、あらゆる健康段階にある対象に応じた科学的根拠に基づく看護実践を行うための基礎的能力を養うことを目的に行われる。各専門領域において対象のニーズを捉え、安全・安楽な看護技術をもとに対象の健康の回復・保持増進にむけて看護実践を展開することを目標とする。看護過程の展開を行うことで、問題解決思考に基づく対象の健康上の課題にむけての科学的アプローチのあり方についても学ぶ。

各看護学(論)の目標・目的

基礎看護学

《教育目的》

看護の主要概念を学び、看護専門職としての機能や位置づけを理解し、各看護学に共通する看護の基礎となる知識・技術・態度を習得する。

《教育目標》

1. 看護の基本概念や学び歴史的に変化してきた過程を理解する
2. 看護の対象である人間を生命尊重の視点で深く学び総合的に理解する
3. 看護の機能と役割を学び看護活動の概要を理解する
4. 多職種との協働、調整能力に必要なマネジメントの基本を理解する
5. 看護実践の基礎となる看護技術を科学的根拠に基づき安全に提供できる基礎的能力を身につける
6. 健康障害をもつ対象及び家族の特徴を理解し、基本的看護について学ぶ

成人看護学

《教育目的》

社会の中で生活している人間を総合的に捉え、成人期にある対象を理解する。また、個々の生活様式や価値観を捉えた上で、あらゆる健康レベル及びライフステージに応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。

《教育目標》

1. 成人期における看護の概念を理解し、成人における倫理・看護の役割と機能を理解する
2. 成人期にある対象を身体的・精神的・社会的・霊的側面を統合的に理解できる
3. 成人期にある対象の多様な健康問題を理解する
4. 成人期にあらゆる健康レベルにある対象とその家族への援助を実践できる基礎的能力を身につける
5. 多職種との連携・調整の方法を理解する

老年看護学

《教育目標》

老年期にある対象の特徴を理解し、高齢者の生活と健康問題を統合しながら老人保健の動向、健康の保持増進、疾病の予防、高齢者の取り巻く家族や支援システムについて学ぶ。

《教育目標》

1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化や特徴を理解する
2. 高齢者の健康障害が、日常生活動作に及ぼす影響について理解し、高齢者の健康を支える基本的技術を理解する
3. 疾患をもつ高齢者とその家族を含めたアセスメントの視点およびその看護について学ぶ
4. 高齢者に対するリハビリテーション看護の意義や目的を理解する
5. 保健医療福祉の動向について学び、チームの一員として他職種との連携・協働のあり方を学ぶ
6. 老年期にある高齢者を理解し、自己の看護観を養う

小児看護学

《教育目標》

子どもの成長発達を理解し、社会の変化が子どもにどのように影響しているかを考え小児看護の基礎的能力を養う。

《教育目的》

1. 子ども観の変遷から子どもの人権について考え、子どもの健康と看護について学ぶ
2. 子どもを取り巻く社会の現状と課題について学び、小児看護の意義について理解する
3. 子どもの成長発達過程を理解する
4. 小児看護の対象を子どもと家族として捉え、看護を実践できる知識、技術、態度を身につける
5. 子どもの健康保持増進へのニーズを把握し、社会資源活用の支援できる基礎的能力を身につける

母性看護学

《教育目標》

女性を取り巻く社会の変化及び母性看護の変遷を学び、女性が健全なライフスタイルを送るための看護が実践できる基礎的能力を習得する。

《教育目的》

1. 性と生殖に関する健康と看護について学び、生命倫理について考える
2. 女性を取り巻く社会の現状と課題について学び、母性看護の意義について理解する
3. 母性看護の対象となる人々が健康生活を営むための看護実践に必要な基礎的能力を身につける
4. 母子保健医療福祉チームの一員として人々のニーズを把握し、社会資源活用の支援ができる基礎的能力を身につける
5. 事故の健全な母性・父性形成の発達を促す

精神看護学

《教育目的》

精神看護の対象となるあらゆる人々を理解し、精神の健康の保持・増進、精神の健康障害をもつ対象と家族を含めた健康回復への支援および人間関係形成の基礎的能力を養う

《教育目標》

1. 精神看護の意義と心について理解し、精神の健康の保持・増進に必要な知識を理解する
2. 社会の変化に伴う精神の健康に関心を持ち、精神看護の理解を深めることができる
3. 精神障害者の置かれてきた歴史的、社会的背景を理解し、精神障害者をひとりの人間として人権を尊重することができる
4. 精神保健医療福祉の法律や制度の動向に目を向け、資源の活用方法を理解する
5. 治療的コミュニケーションを理解し、自己理解・他者理解に努める
6. 精神障害をもつ人とその家族を理解し、精神保健医療福祉の視点から支援を考えることの必要性を理解する

在宅看護論

《教育目的》

地域で生活している療養者とその家族の生活スタイルや価値観を理解し、生活の自立に向けてセルフケア能力を高めるための支援および生活の質(QOL)の維持・向上に向けての支援方法を学ぶ。さらに、対象が望ましい生活するための社会資源の活用、調整の必要性を理解すると共に、保健・医療・福祉サービスにおける看護の役割を理解する。

《教育目標》

1. 在宅看護の概念と変遷を学び、在宅看護の必要性を理解する
2. 在宅看護の対象を理解し、看護の役割・機能を学ぶ
3. 療養者とその家族の生活の自立に向けて必要な基礎的能力を身につける
4. 保健・医療・福祉チームの一員として人々のニーズを把握し、支援できる基礎的能力を身につける
5. 日常から社会に目を向け、自ら社会に生活する主体者としての視点で人々を理解する

看護の統合と実践

《教育目的》

対象の理解を深め、看護の知識・技術・態度を統合し実践できる基礎的能力を習得する。

《教育目標》

1. 看護管理・災害看護・国際看護の意義と役割について理解する
2. 多職種と協働しメンバーシップ・リーダーシップの意義・役割について理解する
3. 医療安全・事件事例分析・シュミレーションをとおして、倫理的判断能力・リスクマネジメント能力を養う
4. 看護の知識・技術・態度を統合し、基礎的看護実践能力を習得する
5. 事例研究を行い、看護研究を行う基本的態度(客観的・科学的・倫理的)を養う

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
論理的思考法		非常勤講師		有無	無
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	30時間／1単位／15回			講義・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 論理的思考法を学ぶとともに、その表現方法養う。					
【目標】 1. 論理的に思考する方法について理解できる。 2. 論理的に考えたことを表現でき、看護実践において必要な論理的思考を学ぶ。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	論理的に思考するとは			講義	
2	プレゼンテーションの作り方			講義	
3	メールのマナー、文章のルール、プレゼンの作り方、バリアフリー			講義	
4	レポートの作業行程、テーマ、ジャンル、対象の設定			講義・発表	
5	主題文と問題提起、シンプルな文の書き方			講義・発表	
6	テーマ、主題文、問題提起の修正			講義・発表	
7	問題提起、仮設、検索語			講義・発表	
8	情報収集			講義・発表	
9	インタビュー調査の準備			講義・発表	
10	社会調査、インタビュー準備			講義・発表	
11	リサーチ課題の書式について			講義・発表	
12	構成			講義・発表	
13	引用のルールと出典の書き方			講義・発表	
14	レポート推敲			講義・発表	
15	論理的に思考するとは			講義・発表	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・木下是夫:レポートの組み立て方, ちくま書房				・筆記試験 ・レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・Mary A. Miller 著, 深谷計子 ・他 訳:看護にいかすクリティカルシンキング, 医学書院					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
情報科学		非常勤講師		大学教授	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		30時間／1単位／15回		講義・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 情報収集・分析、処理の基礎的知識と技術を学び、その活用方法と応用する能力を養う。					
【目標】 1. 情報の収集・分析、処理する方法を理解する。 2. 情報社会と医療・看護の関連性について理解できる。 3. 情報科学の基礎的知識を理解し、看護研究等に活用できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	科目ガイダンス、情報とは、コンピュータへの文字入力			講義	
2	情報の定義と特徴、Word練習①			講義	
3	情報化社会、Word練習②			講義	
4	保健医療と情報①、Word練習③			講義	
5	保健医療と情報②、Word練習④			講義	
6	看護と情報、Excel練習①			講義	
7	医療における情報の記録①、Excel練習②			講義	
8	医療における情報の記録②、Excel練習③			講義	
9	情報倫理と医療倫理、Excel練習④			講義	
10	患者の権利と情報、PowerPoint練習①			講義	
11	個人情報の保護、PowerPoint練習②			講義	
12	既存の情報の収集方法、図書室での文献検索			講義	
13	Excelによる統計解析、X ² 検定実習			講義	
14	最終プレゼンテーション①			発表	
15	最終プレゼンテーション②			発表	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座:別巻 看護情報学, 医学書院				・プレゼンテーション ・レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
教育学		非常勤講師		有無	無
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	30時間／1単位／15回			講義・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 人間の成長発達における教育の重要性を学び、教育の基礎的知識を養う。					
【目標】 1. 人間の成長発達における教育の意義について理解できる。 2. 看護実践における教育方法の基礎的知識が理解できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	科目ガイダンス、コミュニケーションと多様性			講義	
2	人は生まれながらに人なのか、成長について			講義	
3	身体表現とコミュニケーション①			講義	
4	身体表現とコミュニケーション②(たよる、ゆだねる)			講義	
5	身体表現とコミュニケーション③(協力する、創造する)			講義	
6	いじめについて考える			講義	
7	身体と人間関係			講義	
8	スクールカースト			講義	
9	自閉症スペクトラム①(構造化)			講義	
10	自閉症スペクトラム②(TEACCHプログラム)			講義	
11	共に学ぶ、パディシステム			講義	
12	セクシャルマイノリティ			講義	
13	平和教育①CARE(TIVERサチさん)			講義	
14	平和教育②CARE(TIVERサチさん)			講義	
15	平和教育③発表(人生)			発表	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・講師にて作成したテキスト				・筆記試験 ・発表 ・レポート ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
生命と倫理学		非常勤講師		有無	無
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	30時間／1単位／15回			講義・GW・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 生命の尊厳、人間尊重について理解し、医療・看護の基盤となる倫理観を学ぶ。					
【目標】 1. 生命の尊厳について理解できる。 2. 人間尊重について考えを深めることができる。 3. 医療従事者として基盤となる自己の生命観・倫理観を培う。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	科目ガイダンス、道徳理論			講義	
2	帰結主義、道徳倫理			講義	
3	功利主義について			GW・発表	
4	カントの自由論対ベンサム			講義	
5	カント道徳論			講義	
6	安楽死、自殺、旧優生保護法			講義	
7	優性保護法、DVD			講義	
8	優性保護法(松本清張賞)			講義	
9	遺伝子工学①			討論	
10	遺伝子工学②			GW	
11	IPS細胞、再生医療(山中教授)			講義	
12	バイオテクノロジーの何が問題か			講義	
13	医療課題①(アメリカ)			講義	
14	医療課題②(アメリカ)			討論	
15	まとめ				
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・加藤尚武/加茂直樹:生命倫理学を学ぶ人のために,世界思想社				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
文化人類学		非常勤講師		有無	無
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
3年次／前期	15時間／1単位／8回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 世界の文化を幅広く見つけ、人間生活や身近な地域社会に関心を持つことができる。					
【目標】 1. 世界の文化を学び、人間生活を理解する。 2. 地域の文化について理解を深める。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	文化人類学とは			講義	
2	儀礼の構造			講義	
3	沖縄の祭祀と女性			講義	
4	民俗学からみた社会と			講義	
5	門中とは			講義	
6	沖縄の民家、世界観			講義	
7	沖縄のシャーマニズム			講義	
8	キジムナー伝説からみた沖縄の自然観			講義	
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・講師にて作成したテキスト				・論述試験 ・レポート ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
生活環境論		非常勤講師		有無	無
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	15時間／1単位／8回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 地球環境における生態系の在りようを理解した上で、健康の基盤となる生活環境を学ぶ。					
【目標】 1. 生態系と生活環境の関連が理解できる。 2. 生活の場面から地球環境を考える。 3. 生活環境が人間の生活に及ぼす影響について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	科目ガイダンス			講義	
2	地球の歴史、脊椎動物の歴史			講義	
3	生活環境①(石の話)			講義	
4	生活環境②(島の話)			講義	
5	生活環境機能①(天気の話)			講義	
6	生活環境機能②(海流の話)			講義	
7	地球環境(生物相の話)			講義	
8	毒の話			講義	
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・講師にて作成したテキスト				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
社会学		非常勤講師		有無	無
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／後期	30時間／1単位／15回			講義・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 社会学における基本的な概念を学び、人間社会について理解を深める。					
【目標】 1. 社会の概念を理解する。 2. 社会的存在として生活を営む人間を理解する。 3. 社会と看護の関連について理解できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	社会学理論①(ディルケム自殺論)			講義	
2	社会学理論②(ウェーバシカゴ学派)			講義	
3	人口・家族政策			講義	
4	日本の社会変動			講義	
5	日本社会の戦後の社会変動			講義	
6	沖縄の社会構造			講義	
7	沖縄の戦前・戦後の社会変動			講義	
8	戦後の社会変動(エイサーからみる)			講義	
9	守姉と家族			講義	
10	社会調査法			講義	
11	千と千尋の神隠しをテストとして			講義	
12	グリーフの社会学			講義	
13	トピック			講義	
14	ジェンダー、フェミニズム			講義	
15	発表会、シェアする社会			発表	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・ナースのための社会学入門, 医学書院				・筆記試験 ・発表 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
心理学		非常勤講師		臨床心理士	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	30時間／1単位／15回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】					
心理学の基礎的知識を学び、自己と他者を理解することで人間理解につなげる。					
【目標】					
1. 心理学の概念を理解できる。					
2. 人間の心理的発達を理解できる。					
3. 人間の心理や行動を客観的に分析する能力を高め、自己と社会への理解を深める。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	科目ガイダンス			講義	
2	動機づけ、知覚			講義	
3	知覚、記憶			講義	
4	記憶、スキーマ			講義	
5	思考、アルゴリズムとヒューリスティック			講義	
6	ヒューマンエラー			講義	
7	認知、自己認知、ヒューマンスキル			講義	
8	学習、古典的条件付け、オペラント条件付け			講義	
9	パーソナリティ、深層心理			講義	
10	コンプレックス、自我状態			講義	
11	自我状態、コミュニケーション			講義	
12	発達、ピアジェ、フロイト			講義	
13	発達、エリクソン			講義	
14	自我同一性			講義	
15	まとめ			講義	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・ダイアグラム,心理学, 北大路書房				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
人間関係論		非常勤講師		大学教授	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 関係的存在としての人間の特徴を理解し、人間の在り方を学ぶ。					
【目標】 1. 関係的存在としての人間を理解できる。 2. 看護の基盤となる人間関係について理解できる。 3. より良い人間関係を築くための方法について理解できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	科目ガイダンス			講義	
2	ホーソン実験			講義	
3	行動の獲得、社会的役割			講義	
4	社会的役割、役割葛藤①			講義	
5	社会的役割、役割葛藤②			講義	
6	援助のためのガイドライン			講義	
7	対人認知①			講義	
8	対人認知②			講義	
9	ステレオタイプ、対人関係認知			講義	
10	対人魅力			講義	
11	対人コミュニケーション			講義	
12	Nonviolent Communication			講義	
13	説得			講義	
14	集団決定、集団コミュニケーション			講義	
15	患者を支える人間関係			講義	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：別巻14人間関係論，医学書院				・筆記試験 ・レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
英語Ⅰ		非常勤講師		有無	無
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	30時間／1単位／15回			講義・実習	
講義の目的と目標					
【目的】 国際交流に活かせる実用英会話と英文の読解力を身につける。					
【目標】 1. 基本的な日常英会話ができる。 2. 基本的な英文を理解できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	WORD Practice			講義	
2	Unit1: Please speak more slowly.、小テスト①			講義	
3	Unit2: Where are you from?、小テスト②			講義	
4	Unit3: Could you tell me your address, please?、小テスト③			講義	
5	Unit4: What department do you want to visit?、小テスト④			講義	
6	Unit5: Where is the X-ray department?、小テスト⑤			講義	
7	Unit6: What are your symptoms?、小テスト⑥			講義	
8	Unit7: Where does it hurt?、小テスト⑦			講義	
9	Unit8: Have you ever had any serious illnesses?、小テスト⑧			講義	
10	Unit9: Take one tablet, four times a day.、小テスト⑨			講義	
11	Unit10: Let me make an appointment for your test.、小テスト⑩			講義	
12	Unit11: Your surgery will be tomorrow at 9 a.m.、民話発表①、小テスト⑪			講義	
13	Unit12: How are you feeling today?、民話発表②、まとめ①、小テスト⑫			講義	
14	民話発表③、まとめ②、小テスト⑬			講義	
15	アメリカ家庭のおもてなし調理			実習	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・知念クリスティーン: クリスティーンのやさしい英会話, 医学書院				・筆記試験 ・ヒアリング ・英会話 ・ミニテスト ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
英語Ⅱ		非常勤講師		看護師(外国人外来担当)	
年次/開講時期		時間数/単位数/講義回数		有無	
2年次/前期		45時間/2単位/23回		有	
講義の種類					
講義					
講義の目的と目標					
【目的】					
看護実践の場で活かせる看護に必要な英語を学ぶ。					
【目標】					
1. 医療の場で用いる医学、看護に必要な英語の基礎が理解できる。					
2. 看護場面を想定した英語によるコミュニケーション能力を高める。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	科目ガイダンス、Alphabet「r」の発音練習			講義	
2	英語の母音の種類			講義	
3	Unit1: Do you work on the surgical ward?①(困った時の英語)			講義	
4	Unit1: Do you work on the surgical ward?②(診療科名)			講義	
5	Unit1: Do you work on the surgical ward?③(患者の基本情報)			講義	
6	Medical questionnaire Quiz			講義	
7	Unit2: What's your problem today?①(診療手続き)			講義	
8	Unit2: What's your problem today?②(症状)			講義	
9	Unit3: This is the nurses' station.(入院時オリエンテーション)			講義	
10	試験			テスト	
11	Unit4: Are you suffering from any illnesses?①(病歴の聴取)			講義	
12	Unit4: Are you suffering from any illnesses?②(病名)			講義	
13	Unit5: You need to have an MRI.(検査)			講義	
14	Unit6: You're going to have a baby!(産婦人科)			講義	
15	Unit7: My baby has a fever.①(小児科)			講義	
16	Unit7: My baby has a fever.②(予防接種)			講義	
17	Unit8: Your surgery will be tomorrow at 10 am.(手術)			講義	
18	Surgery name and Organ name Quiz			講義	
19	Unit9: How are you feeling?①(術後)			講義	
20	Unit9: How are you feeling?②(日常看護)			講義	
21	Unit10: Are you worried about anything?①(心のケア)			講義	
22	Unit10: Are you worried about anything?②(文化や宗教の違い)			講義	
23	試験			テスト	
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・知念クリスティーン:クリスティーンのレベルアップ看護英会話, 医学書院				・筆記試験 ・ヒアリング ・英会話 ・レポート ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
レクリエーションとスポーツ		非常勤講師		レクリエーションコーディネーター	
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		有無	
2年次／前期		30時間／1単位／15回		有	
講義の目的と目標					
【目的】 レクリエーションとスポーツを通して感性を磨き、人間性の幅を広げる。					
【目標】 1. レクリエーションとスポーツの意義が理解できる。 2. 保健医療福祉活動へつながるレクリエーションの基礎を学ぶ。 3. 身体を動かすことで、心身の健全な発達を促進する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	レクリエーションの意義、授業の流れの説明			講義	
2	実技、アイスブレイキングの楽しさの共有、コミュニケーション			講義	
3	レクの校用、効果、遊びリテーション、介護予防運動			講義	
4	入院生活を快適にするアクティビティの活用、レクの支援方法			講義	
5	バトミントン歴史			講義	
6	楽しさの追求、専用ゲーム(用具の活用)			講義	
7	バトミントン、基本フライト・簡易ゲーム			講義	
8	バトミントン、基本フライト・ダブルスゲーム			講義	
9	対象別レクワーク(用具の活用、アレンジ方法)			講義	
10	バトミントン、基本フライト・ダブルスゲーム			講義	
11	色とコミュニケーション、カラーワーク			講義	
12	手話ソング、喪失体験、ダンス			講義	
13	季節の行事を楽しむ企画			講義	
14	レクグループ発表			発表	
15	試験(レクリエーション理論)			テスト	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・講師にて作成したテキスト				・筆記試験 ・レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
身体のしくみⅠ		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		60時間／2単位／30回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 人体の生命維持の基盤となる器官の機能と構造について学ぶ。					
【目標】 1. 栄養の消化吸収、呼吸、血液循環、体液調節と尿生成、内蔵機能調節における人体の構造と機能を理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	形から見た人体			講義	
2	細胞の構造、エネルギーの生成			講義	
3	細胞膜の機能、細胞の増殖			講義	
4	機能から見た人体			講義	
5	口・咽頭・食道の構造と機能			講義	
6	胃の構造と機能			講義	
7	小腸における栄養素の消化と吸収			講義	
8	膵臓の構造と機能			講義	
9	肝臓と胆嚢の構造と機能			講義	
10	呼吸器の構造			講義	
11	呼吸のしくみ			講義	
12	血液の組成と機能①			講義	
13	血液の組成と機能②			講義	
14	消化器と呼吸器の総復習			講義	
15	循環器系の構成、心臓の構造			講義	
16	心臓の拍出機能①			講義	
17	心臓の拍出機能②			講義	
18	抹消循環系の構造			講義	
19	血液の循環の調和①			講義	
20	血液の循環の調和②			講義	
21	血液の循環の調和③(リンパとリンパ管)			講義	
22	腎臓の構造と機能①			講義	
23	腎臓の構造と機能②			講義	
24	排尿のしくみ			講義	
25	電解質と酸塩基平衡			講義	
26	自律神経による調節			講義	
27	内分泌系による調節			講義	
28	全身の内分泌腺と内分泌細胞			講義	
29	ホルモン分泌の調節			講義	
30	ホルモンによる調節の実際			講義	
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：-人体の構造と機能[1]-解剖生理学, 医学書院				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
身体のしくみⅡ		非常勤講師・専任教員		医師・看護教員	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	45時間／2単位／23回			講義・演習・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 人体の活動を統合する機能と構造と、人体を保護し、種を保存する機能と構造について学ぶ。					
【目標】 1. からだの支持と運動、情報受容と処理、外部からの防御、生殖器における人体の構造と機能を理解する。 2. 統合した人体の構造と機能を理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	骨と関節			講義	
2	体幹の骨と筋			講義	
3	上肢の骨と筋			講義	
4	下肢の骨と筋			講義	
5	頭部の骨と筋			講義	
6	服部の骨と筋			講義	
7	脳神経、高次機能			講義	
8	脊髄神経			講義	
9	眼、視覚			講義	
10	耳、嗅覚、味覚			講義	
11	痛覚、皮膚、体温			講義	
12	免疫①			講義	
13	免疫②			講義	
14	男性・女性生殖器			講義	
15	人の発生			講義	
16	神経系の構造、脳			講義	
17	演習ガイダンス			ガイダンス	
18	演習①			演習	
19	演習②			演習	
20	演習③			演習	
21	演習④			演習	
22	発表会			発表	
23	発表会			発表	
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：-人体の構造と機能[1]-解剖生理学, 医学書院				・筆記試験 ・演習 ・発表 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
生化学		非常勤講師		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	30時間／1単位／15回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 生体を構成する物質とその代謝作用を学び、人間の生命現象を科学的に判断する能力を養う。					
【目標】 1. 人体を構築している臓器、細胞の中で起こっている物質の代謝を理解する。 2. 生体の物質代謝を学び、疾病の成り立ちや回復を科学的に解釈できる基礎能力を養う。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	代謝総論			講義	
2	栄養素の構造と性質①(糖質)			講義	
3	栄養素の構造と性質②(糖質)			講義	
4	栄養素の構造と性質③(脂質)			講義	
5	栄養素の構造と性質④(アミノ酸とタンパク質)			講義	
6	タンパク質の構造			講義	
7	核酸、ビタミン①			講義	
8	ビタミン②、酵素			講義	
9	糖質代謝①			講義	
10	糖質代謝②、脂質代謝①			講義	
11	脂質代謝②			講義	
12	脂質代謝③、タンパク質の代謝①			講義	
13	タンパク質の代謝②			講義	
14	遺伝情報①			講義	
15	遺伝情報②			講義	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・臨床生化学, メディカ出版				・筆記試験 ・レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
栄養と健康		非常勤講師		管理栄養士	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		30時間／1単位／15回		講義・実習	
講義の目的と目標					
【目的】 人間の健康生活を支える食事について考え、生体に取り込まれた栄養素の働きを理解する。					
【目標】 1. 人間にとっての栄養の意義を理解する。 2. 人体における栄養素の働きを理解できる。 3. 食事療法の演習を通して健康の維持・増進し、健康障害の改善方法を理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	栄養学の歴史、看護と栄養学、糖質・カロリー			講義	
2	脂質(二重結合、脂肪酸)、NST			講義	
3	必須脂肪酸、アミノ酸スコア、アミノ酸の補足効果			講義	
4	ビタミン、沖縄の抗酸化野菜			講義	
5	ミネラル、まとめ、栄養と関連して人体何で起こっていること			講義	
6	肥満、メタボリックシンドローム			講義	
7	高血圧症①			講義	
8	高血圧症②(脂質異常症、動脈硬化)			講義	
9	糖尿病			講義	
10	胆嚢・肝臓病			講義	
11	腎臓病、高尿酸血症			講義	
12	癌、低栄養			講義	
13	糖尿病食品交換表			講義	
14	糖尿病食①			実習	
15	糖尿病食②			実習	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：-人体の構造と機能[3]-栄養学, 医学書院				・筆記試験 ・レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
微生物学		非常勤講師		大学准教授	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	30時間／1単位／15回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 微生物が生体に及ぼす影響を理解し、病原微生物の種類と特徴から生体への影響を予防する方法を学ぶ。					
【目標】 1. 感染と発病の概念の違い、感染症の予防と治療について理解する。 2. 病原体と疾患の関係が理解できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	微生物、医動物とは			講義	
2	呼吸器感染症			講義	
3	結核			講義	
4	皮膚に発疹が出現するウイルス感染症とリケッチア			講義	
5	消化器系感染症			講義	
6	肝炎			講義	
7	感染症の検査・治療、尿路感染症			講義	
8	実験結果コロニー観察、グラム染色			講義	
9	性感染症			講義	
10	皮膚粘膜の感染症、皮膚に発疹ウイルス			講義	
11	脳神経系感染症、人獣共通感染症、寄生虫感染症			講義	
12	小児の感染症、母子感染症			講義	
13	高齢者の感染症			講義	
14	日和見感染症、移植患者と感染症、手術創外傷			講義	
15	血管内カテーテル関連血流感染症、薬物耐性			講義	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・ナーシング・グラフィカ:臨床微生物・医動物,メディアカ出版				・筆記試験 ・レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野 I	専門分野 II	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
病理学		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		15時間／1単位／8回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 健康障害に関する病因と病変について学ぶ。					
【目標】 1. 人間の病気の原因とその成り立ちを理解する。 2. 病変の分類について学び、形態的・機能的変化について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	概論①			講義	
2	概論②			講義	
3	先天異常			講義	
4	代謝障害			講義	
5	循環障害			講義	
6	炎症			講義	
7	腫瘍			講義	
8	総括			講義	
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：-疾病のなりたちと回復の促進[1]-病理学, 医学書院				・筆記試験 ・レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
病態生理学Ⅰ		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		45時間／2単位／23回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 呼吸器、循環器、血液・造血器、内分泌疾患の病態生理、診断、検査、治療について学ぶ。					
【目標】 1.呼吸器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 2.循環器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 3.血液・造血器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 4.内分泌疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	呼吸器の看護を学ぶにあたって			講義	
2	呼吸器の構造と機能①			講義	
3	呼吸器の構造と機能②			講義	
4	内分泌疾患①(症状、病態生理、検査)			講義	
5	循環器疾患①			講義	
6	内分泌疾患②			講義	
7	症状とその病態生理			講義	
8	内分泌疾患、甲状腺、副甲状腺			講義	
9	検査と治療・処置①			講義	
10	循環器疾患②			講義	
11	内分泌疾患③(副腎、消化器腫瘍、救急)			講義	
12	検査と治療・処置②			講義	
13	循環器疾患③			講義	
14	循環器疾患④			講義	
15	疾患の理解①			講義	
16	循環器疾患⑤			講義	
17	血液・造血器疾患①			講義	
18	循環器疾患⑥			講義	
19	疾患の理解②			講義	
20	血液・造血器疾患②			講義	
21	循環器疾患⑦			講義	
22	血液・造血器疾患③			講義	
23	循環器疾患⑧			講義	
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：専門Ⅱ-成人看護学[2]-呼吸器，医学書院 ・系統看護学講座：専門Ⅱ-成人看護学[3]-循環器，医学書院 ・系統看護学講座：専門Ⅱ-成人看護学[4]-血液・造血器，医学書院 ・系統看護学講座：専門Ⅱ-成人看護学[6]-内分泌・代謝，医学書院 				<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 ・レポート 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
病態生理学Ⅱ		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	30時間／1単位／15回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 歯・口腔器、消化器、代謝疾患の病態生理、診断、検査、治療について学ぶ。					
【目標】 1. 歯・口腔器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 2. 消化器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 3. 代謝疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	消化器の構造と機能			講義	
2	検査			講義	
3	消化器の治療と処置			講義	
4	疾患の理解①(上部消化管)			講義	
5	疾患の理解②(下部消化管)			講義	
6	疾患の理解③(糖尿病)			講義	
7	代謝疾患の総論①			講義	
8	代謝疾患の総論②			講義	
9	疾患の理解④(高脂血症)			講義	
10	肝機能検査			講義	
11	肝臓の疾患			講義	
12	歯・口腔疾患①			講義	
13	胆のう疾患			講義	
14	膵臓疾患			講義	
15	歯・口腔疾患②			講義	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座: 専門Ⅱ-成人看護学[15]-歯・口腔, 医学書院 ・系統看護学講座: 専門Ⅱ-成人看護学[5]-消化器, 医学書院 ・系統看護学講座: 専門Ⅱ-成人看護学[6]-内分泌・代謝, 医学書院 				<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 ・レポート 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
病態生理学Ⅲ		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 皮膚、アレルギー・膠原病・感染症、眼、耳鼻咽喉疾患の病態生理、診断、検査、治療について学ぶ。					
【目標】 1. 皮膚疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 2. アレルギー・膠原病・感染症、眼、耳鼻咽喉疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 3. 眼疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 4. 耳鼻咽喉疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	アレルギー膠原病①			講義	
2	アレルギー膠原病②			講義	
3	アレルギー膠原病③			講義	
4	アレルギー膠原病④			講義	
5	感染症①			講義	
6	感染症②			講義	
7	眼疾患①			講義	
8	感染症③			講義	
9	感染症④			講義	
10	耳鼻科、解剖と検査方法			講義	
11	皮膚総論(アレルギー、検査)			講義	
12	耳鼻科疾患			講義	
13	眼疾患②			講義	
14	皮膚各論(湿疹～悪性腫瘍)			講義	
15	試験			テスト	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：専門Ⅱ-成人看護学[12]-皮膚，医学書院 ・系統看護学講座：専門Ⅱ-成人看護学[11]-アレルギー・膠原病・感染症，医学書院 ・系統看護学講座：専門Ⅱ-成人看護学[13]-眼，医学書院 ・系統看護学講座：専門Ⅱ-成人看護学[14]-耳鼻咽喉，医学書院 				<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
病態生理学Ⅳ		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	30時間／1単位／15回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 脳・神経、運動器、精神疾患の病態生理、診断、検査、治療について学ぶ。					
【目標】 1. 脳・神経疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 2. 運動器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 3. 精神疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	症状と病態生理、検査と治療			講義	
2	疾患の理解、外傷性の運動器疾患について			講義	
3	内因性運動疾患について			講義	
4	脳神経機能と構造			講義	
5	脳神経症状と病態生理			講義	
6	疾患の理解①			講義	
7	疾患の理解②			講義	
8	疾患の理解③F→K			講義	
9	病態生理(リハビリテーション)			講義	
10	疾患の理解④			講義	
11	疾患の理解⑤			講義	
12	精神疾患①(統合失調症、薬物療法)			講義	
13	精神疾患②(うつ病、メンタルヘルス、精神療法)			講義	
14	精神疾患③(知的発達障害、心理調査、認知症)			講義	
15	精神疾患④(精神科リハビリ、地域精神医療)			講義	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座: 専門Ⅱ-成人看護学[7]-脳・神経, 医学書院 ・系統看護学講座: 専門Ⅱ-成人看護学[10]-運動器, 医学書院 ・系統看護学講座: 専門Ⅱ-精神看護の基礎-精神看護学①, 医学書院 				<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
病態生理学Ⅴ		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	45時間／2単位／23回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 腎・泌尿器、女性生殖器、小児期、周産期疾患の病態生理、診断、検査、治療について学ぶ。					
【目標】 1. 腎・泌尿器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 2. 生殖器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 3. 小児期疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 4. 周産期疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	染色体異常、新生児、感染症			講義	
2	内分泌、呼吸機器			講義	
3	麻酔、代謝、消化器			講義	
4	心に残る医療、循環器			講義	
5	血液、悪性新生物			講義	
6	症状と病態生理(腎臓・泌尿器疾患)			講義	
7	乳腺疾患			講義	
8	泌尿生殖器			講義	
9	検査と治療・処置			講義	
10	泌尿器疾患の理解①			講義	
11	泌尿器疾患の理解②			講義	
12	糖尿病疾患の理解			講義	
13	泌尿器疾患の理解③			講義	
14	泌尿器疾患の理解④			講義	
15	腎不全疾患の理解			講義	
16	女性生殖器疾患の理解①			講義	
17	女性生殖器疾患の理解②			講義	
18	女性生殖器疾患の理解③			講義	
19	妊娠分娩の異常			講義	
20	不妊症			講義	
21	分娩の異常①			講義	
22	分娩の異常②			講義	
23	新生児産褥の異常			講義	
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座: 専門Ⅱ-成人看護学[8]-腎・泌尿器, 医学書院 ・系統看護学講座: 専門Ⅱ-成人看護学[9]-女性生殖器, 医学書院 ・系統看護学講座: 専門Ⅱ-母性看護学[2]-母性看護学各論, 医学書院 ・系統看護学講座: 専門Ⅱ-小児看護学[2]-小児臨床看護学各論, 医学書院 				<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
薬理学		非常勤講師		薬剤師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	30時間／1単位／15回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 薬物が生体に及ぼす作用・副作用を理解し、薬物の取扱いと管理方法を学ぶ。					
【目標】 1. 薬物の生体への作用機序について学び、有効性と安全性について理解する。 2. 薬物の取り扱い、安全管理について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	薬理学総論			講義	
2	薬に関する基礎知識			講義	
3	生体機能と薬			講義	
4	抗炎症薬①			講義	
5	抗炎症薬②			講義	
6	抗炎症薬③			講義	
7	抗凝固薬			講義	
8	医療用麻薬			講義	
9	消化器系作用薬			講義	
10	免疫①			講義	
11	免疫②			講義	
12	抗アレルギー薬			講義	
13	糖尿病治療薬			講義	
14	漢方薬			講義	
15	抗微生物薬			講義	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：-疾病のなりたちと回復の促進[2]-薬理学, メジカルフレンド社				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
公衆衛生学		非常勤講師		大学准教授	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 健康問題と社会背景を理解し、健康問題に対する統計的な知識を学び、健康に関する諸問題を幅広く捉える能力を養う。					
【目標】 1. 人々の健康を保持増進させるための公衆衛生の目的と方法について理解する。 2. 集団の健康状態を把握しりための疫学や健康指標について理解する。 3. 人々の生活環境の状況を学習し、看護と公衆衛生の連携を理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	科目ガイダンス			講義	
2	公衆衛生のエッセンス			講義	
3	公衆衛生の活動対象			講義	
4	公衆衛生のしくみ			講義	
5	環境と健康			講義	
6	国際保健			講義	
7	疫学			講義	
8	地域保健①(母子保健)			講義	
9	地域保健②(成人保健、高齢者保健)			講義	
10	地域保健③(精神保健、歯科保健)			講義	
11	地域保健④(難病支援、障害支援)			講義	
12	地域保健⑤(感染症対策)			講義	
13	学校と健康			講義	
14	職場と健康			講義	
15	健康危機管理、災害保健			講義	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：健康支援と社会保障制度[2]-公衆衛生, 医学書院				・筆記試験 ・レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
社会福祉学Ⅰ		非常勤講師		有無	無
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	15時間／1単位／8回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 社会福祉の定義を学び、看護と社会福祉の関連を習得する。					
【目標】 1. 社会福祉の変遷と社会福祉制度の背景を理解する。 2. 社会福祉の法制度と実施組織や社会福祉従事者について理解する。 3. 他国の社会福祉を学び、わが国の社会福祉の特徴を理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	英米日の社会福祉の歴史			講義	
2	社会福祉の理念、概念			講義	
3	社会福祉の法則、行政、財政			講義	
4	障害福祉			講義	
5	児童福祉			講義	
6	高齢者福祉、生活保護			講義	
7	ソーシャルワーク、医療ソーシャルワーク			講義	
8	まとめ			講義	
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：健康支援と社会保障制度[3]-社会福祉, 医学書院				・筆記試験 ・レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
社会福祉学Ⅱ		非常勤講師		社会福祉士	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	45時間／2単位／23回			講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】					
社会保障の概念と目的、機能を学び、看護の中で社会保障が果たす役割を習得する。					
【目標】					
1. 社会保障の概念や目的・機能について理解する。					
2. 社会保障制度の内容について理解する。					
3. 事例や演習を通して、連携方法や社会福祉援助技術を理解できる。					
4. 地域福祉活動に参加し、社会福祉について理解できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	社会保障の概念、目的、機能、体系、内容、給付費			講義	
2	ボランティア活動について			講義	
3	現代社会の変化			講義	
4	社会保障・社会福祉の変化			講義	
5	医療保障制度①			講義	
6	医療保障制度②			講義	
7	介護保証制度①			講義	
8	介護保証制度②			講義	
9	介護保証制度③			講義	
10	所得保障			講義	
11	労働保険制度			講義	
12	社会福祉実践と医療・看護			講義	
13	連携の重要性・場面とその方法			講義	
14	社会福祉実践と医療・看護の連携①			講義	
15	社会福祉実践と医療・看護の連携②			講義	
16	地域福祉活動①(ボランティア)			演習	
17	地域福祉活動②(ボランティア)			演習	
18	地域福祉活動③(ボランティア)			演習	
19	地域福祉活動④(ボランティア)			演習	
20	地域福祉活動⑤(ボランティア)			演習	
21	地域福祉活動⑥(ボランティア)			演習	
22	地域福祉活動⑦(ボランティア)			演習	
23	地域福祉活動⑧(ボランティア)			演習	
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：健康支援と社会保障制度[3]-社会福祉, 医学書院				・筆記試験 ・レポート ・ミニテスト	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
看護関係法令		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
3年次／前期	15時間／1単位／8回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 看護活動を行うための基盤となる法令及び関連する法について学ぶ。					
【目標】 1. 看護に必要な関係法令の意義を理解する。 2. 看護専門職として責任を理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	講義のすすめ方、法の概念			講義	
2	保健師助産師看護師法			講義	
3	医事法			講義	
4	保健衛生法			講義	
5	薬務法、小テスト			講義	
6	健康保険法と福祉			講義	
7	労働法			講義	
8	試験			テスト	
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：健康支援と社会保障制度[4]-看護関係法令, 医学書院				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
現代医療論		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		15時間／1単位／8回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 医療の変化と健康問題・疾病予防について理解を深め、望ましい医療者・看護師像について学ぶ。また、地域医療活動とその意義について学ぶ。					
【目標】 1. 医療の変化と健康問題、疾病予防の意義について学ぶ。 2. 医療を受ける患者を理解し、医療・看護の職業倫理について学ぶ。 3. 医療制度、医療サービスについて知り、現代医療の問題を理解する。 4. 地域とともにある医療活動について理解でき、将来の医療を担う看護の役割を考えることができる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	医学・医療のあゆみ			講義	
2	健康と病気			講義	
3	生活と健康、医学と医療①			講義	
4	医学と医療②			講義	
5	わが国の医療供給体制①			講義	
6	わが国の医療供給体制②			講義	
7	現代医療における諸問題①			講義	
8	現代医療における諸問題②			講義	
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・現代医療論, メディカルフレンド社				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・国民衛生の動向2015/2016					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学概論Ⅰ		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・演習・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 看護の概念を捉え、看護の位置づけ・専門性について学ぶ。また、看護の対象としての人間の捉え方を明らかにし、看護の機能と役割の重要性を認識できる。					
【目標】 1. 看護の概念や理念などが歴史的推移の中でどのように変化してきたかを理解する。 2. 人間の健康や環境が人々の生活や生き方に影響することを理解する。 3. 看護の対象である人間の特徴や生活者としての人間を理解する。 4. 看護活動の概念を理解し、保健医療福祉チームの一員としての看護の役割を理解する。 5. 看護における看護倫理について理解する。 6. 看護の専門性について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	科目ガイダンス、看護の定義			講義	
2	看護の役割と機能、看護理論			講義	
3	看護の対象の理解			講義	
4	発達しつづける存在としての人間			講義	
5	健康とは			講義	
6	健康データを基に問題作成			講義・演習	
7	問題作成発表			発表	
8	看護の提供者			講義	
9	看護者の倫理①			演習・発表	
10	看護者の倫理②、事例検討			講義	
11	看護の提供のしくみ①			講義	
12	看護の提供のしくみ②、医療安全			講義	
13	国際看護(アフリカの村から)			講義	
14	災害看護			講義	
15	試験			テスト	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座:専門Ⅰ-看護学概論-第16版, 医学書院				・筆記試験 ・レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・高橋照子編集:看護学原論, 南江堂 ・松木光子:看護学概論-第5版-, ヌーヴェルヒロカワ					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学概論Ⅱ		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・GW・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 先人の看護論の中から看護の構成要素について学び、自己の看護観の土台を築く。					
【目標】 1. 看護の構成要素について理解できる。 2. 個人ワークやグループワークを通して、自己の看護観について述べる事ができる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	科目ガイダンス、「主体的に学ぶ」を学ぶ			講義	
2	看護の構成要素、先人の看護論			講義	
3	看護ゼミナール説明			講義	
4	看護覚え書①(空気の質を整える)			講義	
5	看護覚え書②(食事の質を整える)			講義	
6	かかわりの質を整える			講義	
7	観察の視点を身につける			講義	
8	管理の視点を共有する			講義	
9	「看護覚え書」を読みとく、まとめ			GW	
10	事例紹介①(検討、討議)			GW	
11	事例②(検討、討議)			GW	
12	事例③(検討、まとめ)			GW	
13	看護論セミナー発表①			発表	
14	看護論セミナー発表②			発表	
15	試験			テスト	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴァージニア ハンダーソン:看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会 ・フロレンス ナイチンゲール:看護覚え書き-本当の看護とそうでない看護-, 日本看護協会出版会 				<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 ・発表 ・レポート 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
<ul style="list-style-type: none"> ・高橋照子編集:看護学原論, 南江堂 ・黒田裕子監修:やさしく学ぶ看護倫理論第2版, 日総研 ・南裕子他訳:看護倫理集-より高度な看護実践のために-, 日本看護協会出版会 					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学方法論Ⅰ		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 看護を実践するための基礎となる技術の概念について理解し、安全・安楽な看護行為に共通する基本技術を習得する。					
【目標】 1. 看護における技術の概念及び看護技術の基本原則について理解する。 2. 看護におけるコミュニケーションの基礎を理解し活用方法の実際を学ぶ。 3. 看護における観察・記録・報告の目的と重要性について理解できる。 4. 安全を守る技術の意義や方法について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	技術の概論①			講義	事前練習
2	コミュニケーション①(構成要素とプロセス、看護におけるコミュニケーションの定義)			講義	
3	コミュニケーション②(コミュニケーションの基本と効果的なコミュニケーション方法)			講義	
4	技術の概論②			講義	
5	コミュニケーション③(コミュニケーションにおける自己の特徴を知ろう)			講義	
6	安全を守る援助①			講義	
7	コミュニケーション④(コミュニケーション障害のある人の特徴とその対応)			講義	
8	観察、記録、報告①			講義	
9	安全を守る援助②			講義	
10	安全を守る援助③			講義	
11	観察、記録、報告②			講義	
12	安全を守る援助④			講義	
13	安全を守る援助⑤ 演習(手洗い、ガウンテクニック)			演習	
14	安全を守る援助⑥ 演習(手洗い、ガウンテクニック)			演習	
15	試験			テスト	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座:専門分野Ⅰ-基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ-第16版, 医学書院 ・医療情報科学研究所:看護技術がみえるvol.1-基礎看護技術-, メディックメディア ・医療情報科学研究所:看護技術がみえるvol.2-臨床看護技術-, メディックメディア 				<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 ・演習 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
<ul style="list-style-type: none"> ・三上れつ他:演習・実習に役立つ基礎看護技術 第3版, ヌーヴェルヒロカワ ・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ⑩-基礎看護技術-第4版, メディカ出版 ・山口瑞穂子:看護技術-講義・演習ノート-上下巻, 医学芸術社 					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学方法論Ⅱ		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 対象の健康生活を保持するために、環境調整の援助技術、バイタルサインの測定及び活動と休息への援助などの日常生活援助技術を習得する。					
【目標】 1. 環境調整の援助技術、バイタルサインの測定及び活動と休息への援助などの日常生活援助技術の概念および基礎知識を習得する。 2. 安全・安楽な援助技術の必要性を理解し、実施できる。 3. 科学的根拠に基づいた看護ができる基礎的能力を身につける。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	環境調整の援助①			講義	事前練習
2	環境調整の援助②			講義	
3	活動と休息の援助①(活動休息の意義と影響要因)			講義	
4	活動と休息の援助②(ボディメカニズム、体位変換、ポジショニング)			講義	
5	活動と休息の援助③(背抜き、移乗・移動、休息への援助)			講義	
6	バイタルサイン①(バイタルサイン測定の意義・目的～体温測定)			講義	
7	環境調整の援助③ 演習(環境整備、シーツ交換)			演習	
8	環境調整の援助④ 演習(環境整備、シーツ交換)			演習	
9	バイタルサイン②(循環、脈拍、血圧測定)			講義	
10	バイタルサイン③(呼吸、spo2、意識)			講義	
11	活動① 演習(体位変換、車イス移乗・移動)			演習	
12	活動② 演習(体位変換、車イス移乗・移動)			演習	
13	バイタルサイン④ 演習			演習	
14	バイタルサイン⑤ 演習			演習	
15	試験			テスト	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座:専門分野Ⅰ-基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ-第16版, 医学書院 ・医療情報科学研究所:看護技術がみえるvol.1-基礎看護技術-, メディックメディア ・医療情報科学研究所:看護技術がみえるvol.2-臨床看護技術-, メディックメディア ・系統看護学講座:専門分野Ⅰ-臨床看護総論-第6版, 医学書院 ・フィジカルアセスメントがみえる 第1版, メディックメディア 				<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 ・演習 	
★60点未満は、再試験					
参考図書					
<ul style="list-style-type: none"> ・三上れつ他:演習・実習に役立つ基礎看護技術 第3版, ヌーヴェルヒロカワ ・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ⑩-基礎看護技術-第4版, メディカ出版 ・山口瑞穂子:看護技術-講義・演習ノート-上下巻, 医学芸術社 					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学方法論Ⅲ		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		45時間／2単位／23回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 対象の健康生活を保持するために、清潔・衣生活への援助、栄養と食事の援助及び排泄の援助などの日常生活援助技術を習得する。					
【目標】 1. 清潔・衣生活への援助、栄養と食事の援助及び排泄の援助などの日常生活援助技術の概念及び基礎知識を習得する。 2. 安全・安楽な援助技術の必要性を理解し、実施できる。 3. 科学的根拠に基づいた看護ができる基礎的能力を身につける。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	栄養と食事の援助 口腔ケア①			講義	
2	栄養と食事の援助 食事①			講義	
3	栄養と食事の援助 口腔ケア② 演習			講義	
4	栄養と食事の援助 食事②			講義	
5	排泄の援助①			講義	
6	身体の清潔と衣生活の援助①(清潔と衣生活の意義)			講義	
7	排泄の援助②			講義	
8	身体の清潔と衣生活の援助②(清潔と衣生活のアセスメント)			講義	
9	身体の清潔と衣生活の援助③(清潔援助の実際、ジグソー学習)			講義	
10	排泄の援助③			講義	
11	身体の清潔と衣生活の援助④(爪切り、病衣交換、石鹸清拭体験)			講義	
12	身体の清潔と衣生活の援助⑤(洗髪、足浴体位の工夫)			講義	
13	シャワー浴演習①			演習	事前練習
14	シャワー浴演習②			演習	
15	清拭、足浴、病衣交換演習①			演習	事前練習
16	清拭、足浴、病衣交換演習②			演習	
17	排泄援助④			講義	
18	排泄援助⑤ 演習(陰部洗浄、オムツ交換)			演習	事前練習
19	排泄援助⑥ 演習(陰部洗浄、オムツ交換)			演習	
20	排泄援助⑦ 演習(便器挿入)			演習	事前練習
21	排泄援助⑧ 演習(便器挿入)			演習	
22	試験			テスト	
23	試験			テスト	
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座:専門分野Ⅰ-基礎看護技術Ⅱ-第16版,医学書院 ・医療情報科学研究所:看護技術がみえるvol.1-基礎看護技術-,メディックメディア ・医療情報科学研究所:看護技術がみえるvol.2-臨床看護技術-,メディックメディア 				<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 ・演習 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
<ul style="list-style-type: none"> ・三上れつ他:演習・実習に役立つ基礎看護技術 第3版,ヌーヴェルヒロカワ ・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ⑩-基礎看護技術-第4版,メディカ出版 ・山口瑞穂子:看護技術-講義・演習ノート-上下巻,医学芸術社 					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学方法論Ⅳ		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		45時間／2単位／23回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 看護におけるフィジカルアセスメント及び身体計測の技術を習得し、さらに検査・治療に伴う看護の役割と援助方法を学ぶ。					
【目標】 1. 系統別のフィジカルイクザミネーションが正確にでき、正常と異常が理解できる。 2. 検査の意義や安心して検査を受けるための看護者の役割を理解する。 3. 薬物取り扱い上の法的責任を理解し、与薬の意義や方法を習得する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	フィジカルアセスメント①(フィジカルアセスメントの基礎技術)			講義	
2	フィジカルアセスメント②(全身状態)			講義	
3	フィジカルアセスメント③(頭頸部)			講義	
4	フィジカルアセスメント④(胸部)			講義	
5	薬物療法と看護①			講義	
6	薬物療法と看護②			講義	
7	フィジカルアセスメント⑤(腹部)			講義	
8	薬物療法と看護③ 演習(内服)			演習	事前練習
9	フィジカルアセスメント⑥(筋・骨格系、神経系)			講義	
10	検査時の看護①			講義	
11	薬物療法と看護④ 演習(内服)			演習	事前練習
12	検査時の看護②			講義	
13	フィジカルアセスメント⑦(身体各部の計測)			講義	
14	薬物療法と看護⑤			講義	
15	薬物療法と看護⑥			講義	
16	検査時の看護③ 演習(採血)			演習	事前練習
17	検査時の看護④ 演習(採血)			演習	
18	本試験			講義	
19	薬物療法と看護⑦ 演習(筋肉注射)			演習	事前練習
20	薬物療法と看護⑧ 演習(筋肉注射)			演習	
21	薬物療法と看護⑨ 演習(静脈注射)			演習	事前練習
22	薬物療法と看護⑩ 演習(静脈注射)			演習	
23	試験			テスト	
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座:専門分野Ⅰ-基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ-第16版,医学書院 ・村上美好監修:看護のためのフィジカルアセスメント,インターメディカ ・医療情報科学研究所:看護技術がみえるvol.1-基礎看護技術-,メディックメディア ・医療情報科学研究所:看護技術がみえるvol.2-臨床看護技術-,メディックメディア 				<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 ・演習 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
<ul style="list-style-type: none"> ・三上れつ他:演習・実習に役立つ基礎看護技術 第3版,ヌーヴェルヒロカワ ・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ⑩-基礎看護技術-第4版,メディカ出版 ・山口瑞穂子:看護技術-講義・演習ノート-上下巻,医学芸術社 					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学方法論Ⅴ		非常勤講師・専任教員		看護師・看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		45時間／2単位／23回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 健康障害を持つ対象に対し経過別・症状別・治療処置別等に応じた基礎的知識及びその援助方法を学ぶ。					
【目標】 1. さまざまな健康レベルにある対象の特徴を理解し、看護の機能と役割を学ぶ。 2. 健康障害にある対象の主な症状の基礎知識を理解し、援助の方法を学ぶ。 3. 対象に行われる治療・処置の原則・原理を理解し、看護援助の実際を学ぶ。 4. 医療用機器を安全、効果的に取り扱うための原則を知り、機器と共存する対象への援助方法を学ぶ。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	経過別看護①(急性期)			講義	
2	経過別看護②(慢性期、回復期)			講義	
3	経過別看護③(終末期)			講義	
4	痛み、発熱のある患者の看護①			講義	
5	痛み、発熱のある患者の看護② 演習(発熱)			講義	
6	消化器症状と看護			講義	
7	認知や知覚に関連する症状を示す対象者の看護			講義	
8	創傷管理の基礎知識、包帯法			講義	
9	創洗浄と創保護、褥瘡ケア、褥症ケア			講義	
10	医療用機器の原理と実際			講義	
11	洗浄、消毒、滅菌、無菌操作			講義	
12	演習(創保護、包帯法)			演習	事前練習
13	循環器障害をもつ患者の看護			講義	
14	呼吸器障害をもつ患者の看護			講義	
15	演習(無菌操作)①			演習	事前練習
16	演習(無菌操作)②			演習	
17	放射線療法と看護			講義	
18	演習(吸引)①			演習	事前練習
19	演習(吸引)②			演習	
20	演習(救急法と看護)①			演習	事前練習
21	演習(救急法と看護)②			演習	
22	試験			テスト	
23	試験			テスト	
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座:専門分野Ⅰ-基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ-第16版,医学書院 ・系統看護学講座:専門分野Ⅰ-臨床看護総論-第6版,医学書院 ・医療情報科学研究所:看護技術がみえるvol.1-基礎看護技術-,メディックメディア ・医療情報科学研究所:看護技術がみえるvol.2-臨床看護技術-,メディックメディア 				<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 ・演習 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
<ul style="list-style-type: none"> ・三上れつ他:演習・実習に役立つ基礎看護技術 第3版,ヌーヴェルヒロカワ ・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ⑩-基礎看護技術-第4版,メディカ出版 ・山口瑞穂子:看護技術-講義・演習ノート-上下巻,医学芸術社 					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学方法論Ⅵ		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／後期	30時間／1単位／15回			講義・GW・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 看護過程にそって看護の実践を行うことの意義と重要性が理解でき、教育的関わりの方法および具体的展開の方法を学ぶ。					
【目標】 1. 看護過程の意義を理解できる。 2. 看護過程の構成要素とプロセスを理解する。 3. 教育的関わりの対象、過程及び方法を理解する。 4. 紙上事例を使い対象の日常生活家庭を整えるための看護過程が展開できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	看護過程の概念			講義	
2	看護過程の各段階(アセスメント)			講義	
3	事例疾患理解①(病態関連図)			講義	
4	事例疾患理解②(看護問題の明確化)			講義	
5	事例疾患理解③(計画)			講義	
6	教育的関わり①(学習支援)			講義	
7	紙上事例①			GW	
8	紙上事例②			GW	
9	看護過程発表①			発表	
10	看護過程発表②			発表	
11	事例疾患理解④(実施)			講義	
12	教育的関わり②(学習支援)発表			発表	
13	教育的関わり③(学習支援)発表			発表	
14	事例疾患理解⑤(実施:SOAP、評価)			講義	
15	試験			テスト	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> 秋葉公子他:看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第4版, ヌーヴェルヒロカワ 系統看護学講座:専門分野Ⅰ-基礎看護技術Ⅰ-第16版, 医学書院 				<ul style="list-style-type: none"> 筆記試験 発表 レポート 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
<ul style="list-style-type: none"> 吉澤理:関連図の書き方をマスターしよう, 医学芸術社 任和子:看護学生必修シリーズ改訂版 看護過程展開ガイド-ヘンダーソン、ゴードン、NANDAの枠組みによる-, 照林社 					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
成人看護学概論		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 成人看護学の概念と成人期の特徴と対象を理解し、成人期の保健・医療・福祉の動向と課題、倫理と看護者の役割について学ぶ。					
【目標】 1. 成人看護学の概念と成人期の特徴を理解する。 2. 成人期にある人の健康問題について理解し、あらゆる健康レベルに応じた援助方法を理解する。 3. 成人期にある人の基本的な看護援助について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	ガイダンス 対象理解 対象の生活			講義	
2	成人期の発達段階・発達課題			講義	
3	成人の健康の動向と保健・医療・福祉対策①			講義	
4	成人の健康の動向と保健・医療・福祉対策②			講義	
5	成人期にある人が健康障害をもつことの意味、健康生活を支える人間関係、患者・家族の意思決定を支える			講義	
6	健康の危機状況への対応			講義	
7	健康行動への行動変容			講義	
8	成人の健康状態に応じた看護①(急性期)			講義	
9	成人の健康状態に応じた看護②(慢性期)			講義	
10	成人の健康状態に応じた看護③(リハビリ)			講義	
11	成人の健康状態に応じた看護④(リハビリ)			講義	
12	成人の健康状態に応じた看護⑤(終末期)			講義	
13	地域・在宅への継続医療と看護①			講義	
14	地域・在宅への継続医療と看護②			講義	
15	試験			テスト	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座:成人看護学[1]-成人看護学総論-, 医学書院				・筆記試験 ・レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・国民衛生の動向					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
成人看護学方法論Ⅰ		非常勤講師・専任教員		看護師・看護教員	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	60時間／2単位／30回			講義・演習・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 急激な身体侵襲で生命の危機状態にある対象の特徴を理解すると共に回復を促進する援助について学ぶ。					
【目標】					
1. 循環機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、その看護の方法を理解する。					
2. 呼吸機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、その看護の方法を理解する。					
3. 消化機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、事例を用い看護過程の展開方法や看護の方法を理解する。					
4. 周術期の対象の特徴と問題をとらえ、事例を用い看護過程の展開方法や看護の方法を理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	循環機能障害をもつ対象理解と症状に対する看護			講義	事前練習
2	循環機能障害の検査を受ける対象の看護			講義	
3	循環機能障害の治療・処置を受ける対象の看護			講義	
4	循環器疾患をもつ対象の看護			講義	
5	呼吸機能障害をもつ対象理解と症状に対する看護			講義	
6	呼吸器機能障害の検査・治療・処置を受ける対象の看護			講義	
7	呼吸器疾患をもつ対象の看護			講義	
8	呼吸器機能障害で人工呼吸療法を受ける対象の看護			講義	
9	呼吸機能障害で呼吸療法を受ける対象の看護			講義	
10	救急救命看護①			演習	
11	救急救命看護②			演習	
12	試験			テスト	
13	消化器機能障害をもつ対象理解			講義	
14	消化器機能障害の症状に対する対象の看護			講義	
15	消化器機能障害の検査を受ける対象の看護			講義	
16	消化機能障害の治療・処置を受ける対象の看護			講義	
17	消化器疾患をもつ対象の看護			講義	
18	消化器疾患の周手術期の看護①(術前)			講義	
19	消化器疾患の周手術期の看護②(術中)			講義	
20	消化器疾患の周手術期の看護③(術後)			講義	
21	消化器疾患の周手術期の看護④(術後)			講義	
22	消化器疾患で手術を受ける対象の看護①(看護過程の展開)			講義	
23	消化器疾患で手術を受ける対象の看護②(看護過程の展開)			講義	
24	消化器疾患で手術を受ける対象の看護③(看護過程の展開)			講義	
25	消化器疾患で手術を受ける対象の看護④(看護過程の展開)			講義	
26	消化器疾患で手術を受ける対象の看護⑤(看護過程の展開)			講義	
27	消化器疾患で手術を受ける対象の看護⑥(看護過程の展開)			講義	
28	消化器疾患で手術を受ける対象の看護⑦(看護過程の展開)			発表	
29	消化器疾患で手術を受ける対象の看護⑧(看護過程の展開)			発表	
30	試験			テスト	
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座:成人看護学[2][3][5], 医学書院 ・成人看護学-周手術期看護論-, ニューベルヒロカワ				・筆記試験 ・レポート ・演習発表 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
成人看護学方法論Ⅱ		非常勤講師・専任教員		看護師・看護教員	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	45時間／2単位／23回			講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】					
生涯にわたり疾病の自己管理を必要とする対象の看護、対象とその家族が健康障害を受容する過程やセルフケアを高める援助の方法を学ぶ。さらに、終末期における対象の特徴を理解すると共に終末期看護について学び自己の死生観を養う。					
【目標】					
1. 内分泌・代謝機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、事例を用い看護過程の展開方法や看護の方法を理解する。					
2. 血液・造血器障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、看護の方法を理解する。					
3. 免疫・感染機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、看護の方法を理解する。					
4. 腎・泌尿器機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、看護の方法を理解する。					
5. 終末期にある対象の特徴を理解し、緩和ケアの方法を理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	アレルギー疾患をもつ対象の看護/ステロイド療法を受ける対象の看護			講義	
2	膠原病をもつ対象への看護(間接リウマチ・全身性エリテマトーデス)			講義	
3	血液、造血器障害を持つ対象の看護			講義	
4	腎・泌尿器障害の症状・検査に対する看護			講義	
5	腎・泌尿器疾患をもつ対象の看護(尿路結石術)			講義	
6	腎・泌尿器疾患の治療・検査を受ける対象の看護(尿路変向術)			講義	
7	腎不全をもつ対象の看護(急性期・慢性期)/透析を受ける対象の看護			講義	
8	内分泌・代謝機能障害を持つ対象の看護/下垂体疾患をもつ対象の看護			講義	
9	甲状腺疾患をもつ対象の看護/副腎疾患をもつ対象の看護			講義	
10	糖尿病をもつ対象の看護(対象理解・症状に対する看護)			講義	
11	糖尿病の検査時の看護(糖尿病検査法・経口ブドウ糖負荷試験)			講義	
12	糖尿病看護の実際			講義	
13	血糖測定			演習	
14	試験			テスト	
15	内分泌・代謝機能障害を持つ対象の看護①(看護過程の展開)			講義	
16	内分泌・代謝機能障害を持つ対象の看護②(看護過程の展開)			演習	
17	内分泌・代謝機能障害を持つ対象の看護③(看護過程の展開)			演習	
18	内分泌・代謝機能障害を持つ対象の看護④(看護過程の展開)			演習	
19	内分泌・代謝機能障害を持つ対象の看護⑤(看護過程の展開)			演習	
20	内分泌・代謝機能障害を持つ対象の看護⑥(看護過程の展開)			演習	
21	内分泌・代謝機能障害を持つ対象の看護⑦(看護過程の展開)			演習	
22	終末期にある対象の特徴と看護			講義	
23	終末期における緩和ケア			講義	
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座:成人看護学[4][6][8][11], 医学書院				・筆記試験 ・レポート ・演習発表 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
成人看護学方法論Ⅲ		非常勤講師・専任教員		看護師・看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 回復過程において障害への適応と社会復帰を目指す対象への看護を理解する。					
【目標】 1. 脳神経機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、その看護の方法を理解する。 2. 運動機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、その看護の方法を理解する。 3. 生殖機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、その看護の方法を理解する。 4. 感覚機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、その看護の方法を理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	脳神経機能障害を持つ対象の特徴と看護			講義	
2	脳神経機能障害の症状に対する対象の看護			講義	
3	脳神経機能障害で検査・治療・処置を受ける対象の看護			講義	
4	脳神経疾患を持つ対象の看護①(脳腫瘍、頭部外傷、脊髄疾患、神経疾患)			講義	
5	脳神経疾患を持つ対象の看護②(脳腫瘍、頭部外傷、脊髄疾患、神経疾患)			講義	
6	脳神経機能障害を持つ対象の特徴と看護もつ対象のリハビリテーションの実際①			講義	
7	脳神経機能障害を持つ対象の特徴と看護もつ対象のリハビリテーションの実際②			講義	
8	運動機能障害を持つ対象の理解			講義	
9	運動機能障害の症状に対する看護			講義	
10	運動機能障害で検査を受ける対象の看護			講義	
11	運動機能障害で治療・処置を受ける対象の看護			講義	
12	運動機能疾患を持つ対象の看護			講義	
13	生殖機能障害を持つ対象理解と検査時の看護			講義	
14	生殖機能障害を持つ対象の看護			講義	
15	試験			テスト	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座:成人看護学[7][8][9][10][12][13][14], 医学書院				・筆記試験 ・レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
老年看護学概論		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		30時間／1単位／15回		講義・演習・交流	
講義の目的と目標					
【目的】 老年看護の意義を理解し、加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化や特徴を学ぶ。さらに、高齢者を取り巻く家族や保健医療福祉の動向を学ぶ。					
【目標】 1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化を理解できる。 2. 高齢者のライフステージにおける特徴と課題を理解できる。 3. 高齢者の健康を保持増進するための援助方法を理解できる。 4. 高齢者を取り巻く保健医療福祉について理解できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	高齢者の理解(老いとは、老年看護の変遷、高齢者の時代背景)			講義	事前練習 準備
2	高齢者の生活(発達課題、ライフステージ、社会生活)			講義	
3	老化の身体的特徴①(老化の要因、原因)			講義	
4	老化の身体的特徴②			講義	
5	老化の身体的特徴③			講義	
6	高齢者体験①			演習	
7	高齢者体験②			演習	
8	加齢と心・高齢者の性			講義	
9	高齢者の理解①(高齢者交流)			交流	
10	高齢者の理解②(高齢者交流)			交流	
11	高齢者の現状、家族、暮らし			講義	
12	高齢社会における保健医療福祉、介護保険制度			講義	
13	高齢者の権利擁護(差別、虐待、身体拘束)			講義	
14	老年看護のなりたち(目標と役割、倫理)			講義	
15	試験			テスト	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座:老年看護学, 医学書院 ・系統看護学講座:老年看護学-病態・疾患論-, 医学書院				・筆記試験 ・レポート ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
老年看護学方法論Ⅰ		非常勤講師・専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		45時間／2単位／23回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 高齢者の健康障害が日常生活活動動作に及ぼす影響について学び、その問題を解決もしくは生活への影響を最小限にするための基本的な看護援助を習得する。また、老年期に特徴的な疾患をもつ高齢者の看護のアセスメントの視点について理解する。					
【目標】					
1. 加齢に伴う健康障害と生活への影響を理解できる。					
2. 疾患をもつ高齢者の看護のアセスメントと看護援助について理解できる。					
3. 生活機能障害、健康障害に応じてのアセスメントの視点と看護援助について理解できる。					
4. 高齢者のリハビリテーションの意義や目的を理解できる。					
5. 高齢者のADL、QOLを維持・向上するための看護の視点について理解できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	高齢者の特徴とアセスメント			講義	事前練習
2	コミュニケーション障害への援助			講義	
3	高齢者の排泄・清潔の援助①			講義	
4	高齢者の排泄・清潔の援助②			演習	
5	高齢者の休息、睡眠、痛みの援助			講義	
6	栄養障害のある高齢者への援助			講義	
7	栄養障害のある高齢者への嚥下訓練①			演習	
8	栄養障害のある高齢者への嚥下訓練②			演習	
9	高齢者のリスクマネジメント			講義	
10	検査、薬物療法を受ける高齢者の看護			講義	
11	試験			テスト	
12	腎臓・泌尿器系に障害を持つ高齢者の看護			講義	
13	運動器に障害を持つ高齢者の看護			講義	
14	神経機能に障害を持つ高齢者の看護、脳血管障害をもつ高齢者の看護			講義	
15	循環・呼吸機能に障害をもつ高齢者の看護			講義	
16	感覚機能に障害を持つ高齢者の看護			講義	
17	認知機能に障害をもつ高齢者の看護①			講義	
18	認知機能に障害をもつ高齢者の看護②			講義	
19	皮膚疾患、感染症を持つ高齢者の看護			講義	
20	手術を受ける高齢者の看護			講義	
21	リハビリテーションを受ける高齢者の看護			講義	
22	高齢者の終末期の看護			講義	
23	試験			テスト	
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：老年看護学，医学書院 ・系統看護学講座：老年看護学-病態・疾患論-，医学書院 ・生活機能からみた老年看護過程，医学書院 				<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 ・演習 ・レポート 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野 I	専門分野 II	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
老年看護学方法論 II		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・ワーク・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 老年看護の看護過程が展開できる。					
【目標】 1. 紙上事例を通して、老年期にある対象の健康上の問題を理解し、生活に焦点をあてた看護過程の展開ができる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	高齢者の看護過程			講義	
2	アセスメント、関連図、看護の焦点			講義	
3	アセスメント、看護計画			講義	
4	看護過程①			個人ワーク	
5	看護過程②			個人ワーク	
6	看護過程③			個人ワーク	
7	看護過程④			GW	
8	看護過程⑤			GW	
9	看護過程⑥			GW	
10	看護過程⑦			GW	
11	看護過程⑧			GW	
12	看護過程⑨			GW	
13	看護過程⑩			GW	
14	看護過程⑪			発表	
15	看護過程⑫			発表	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座:老年看護学, 医学書院 ・系統看護学講座:老年看護学-病態・疾患論-, 医学書院 ・生活機能からみた老年看護過程-病態・生活機能関連図-, 医学書院 				<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・発表内容 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
小児看護学概論		非常勤講師・専任教員		看護師・看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		30時間／1単位／15回		講義・ワーク・発表・実習	
講義の目的と目標					
【目的】 子どもの特徴と子どもを取り巻く環境について学び、小児看護の対象を理解する。					
【目標】 1. 小児各期の成長発達段階を理解する。 2. 小児各期の日常生活と援助方法を理解する。 3. 子どもの遊びの意義と特徴を理解する。 4. 子どもの人権について考えを深め、子ども観を養う。 5. 子どもを取り巻く社会について理解する。 6. 小児の栄養について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	小児看護における発達論			講義	
2	新生児の成長発達と養育			講義	
3	乳児の成長発達と養育			講義	
4	幼児の成長発達と養育			講義	
5	新生児から幼児までの成長・発達のみとめ			個人ワーク	
6	学童・思春期の成長と養育			講義	
7	子どもにとっての遊び			講義	
8	手作り名札兼おもちゃ①			発表	
9	手作り名札兼おもちゃ②			発表	
10	これからの小児看護学①(子どもの権利、統計、事故)			講義	
11	これからの小児看護学②(児童福祉、学校保健、予防接種)			講義	
12	小児の栄養			講義	
13	幼児食の実際①			実習	
14	幼児食の実際②			実習	
15	試験			テスト	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座:小児看護学[1], 医学書院				・筆記試験 ・手作り名札 ・レポート ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・国民衛生の動向					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
小児看護学方法論Ⅰ		非常勤講師・専任教員		看護師・看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		45時間／2単位／23回		講義・ワーク・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 健康障害や入院が小児や家族に及ぼす影響について学ぶ。 小児の主な疾患疾患・傷害を理解し、看護に必要な知識・技術を学ぶ。					
【目標】 1. 健康問題が子どもと家族に及ぼす影響について理解する。 2. さまざまな状況にある子どもと家族への看護を理解する。 3. 成長発達段階に応じた看護を理解する。 4. 小児看護に必要な看護技術を身につける。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	病気・障害をもつ子どもと家族への看護			講義	
2	入院中、外来、在宅療養中の子どもと家族の看護			講義	
3	急性期、周手術期にある子どもと家族の看護			講義	
4	障害をもつ子どもと家族の看護/子どもの虐待と看護			講義	
5	ブレパレーションとは			講義	
6	小児のフィジカルアセスメント			講義	
7	小児看護技術演習のレポート作成			個人ワーク	
8	小児看護の技術演習①(バイタルサイン、身長計測、シーネ固定)			演習	事前練習
9	小児看護の技術演習②(バイタルサイン、身長計測、シーネ固定)			演習	
10	小児看護の技術演習①(輸液管理)			演習	事前練習
11	小児看護の技術演習②(輸液管理)			演習	
12	試験			テスト	
13	先天性心疾患をもつ子どもと家族の看護			講義	
14	低出生体重児・ハイリスク新生児の看護			講義	
15	先天的な問題をもつ子どもと家族の看護			講義	
16	呼吸器疾患をもつ子どもと家族の看護			講義	
17	腎・泌尿器及び生殖器疾患をもつ子どもと家族の看護			講義	
18	代謝性疾患・免疫・アレルギー性疾患をもつ子どもと家族の看護			講義	
19	神経系疾患をもつ子どもと家族の看護			講義	
20	消化器疾患をもつ子どもと家族の看護			講義	
21	感染症の子どもと家族の看護			講義	
22	血液疾患をもつ子どもと家族の看護			講義	
23	試験			テスト	
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座:小児看護学[1][2], 医学書院 ・小児看護技術-子どもの家族の力を引き出す技-, 南江堂				・筆記試験 ・演習	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
小児看護学方法論Ⅱ		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／後期		30時間／1単位／15回		講義・ワーク・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 小児看護事例を通して看護過程を学ぶ。					
【目標】 1. 事例を通して全体像の捉え方、小児の看護過程を理解する。 2. 指導内容に合わせたプレパレーションツールを作成することができる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	看護過程ガイダンス			講義	
2	看護過程①(アセスメント)			個人ワーク	
3	看護過程②(アセスメント)			個人ワーク	
4	看護過程③(展開)			GW	
5	看護過程④(展開)			GW	
6	看護過程⑤(展開)			GW	
7	医療を受ける子どもの権利、プレパレーション			講義	
8	プレパレーション①(作成)			個人ワーク	
9	プレパレーション②(作成)			個人ワーク	
10	プレパレーション③			発表	
11	看護過程⑥(準備)			GW	
12	看護過程⑦			発表	
13	看護過程⑧			発表	
14	看護過程⑨			発表	
15	看護過程のまとめ			講義	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座:小児看護学[1][2], 医学書院 ・小児看護技術-子どもの家族の力を引き出す技-, 南江堂 				<ul style="list-style-type: none"> ・プレパレーションツール ・レポート ・看護過程発表 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
母性看護学概論		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		30時間／1単位／15回		講義・実習・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 女性を取り巻く環境について学び、母性看護の対象及び役割を理解する。					
【目標】 1. 性の意義を理解し、生命の尊厳と人間の尊重について考えを深める。 2. 母性看護の対象を女性のライフサイクルの変化と家族のライフサイクルとの関連を通して理解できる。 3. 女性を取り巻く環境の変化及び特徴と、それらが母性の役割に及ぼす影響について理解できる。 4. 生命誕生を援助する看護者としての倫理観を養う。 5. 母子保健医療福祉チームの一員として看護者の役割が理解できる。 6. 自己の母性・父性観を深める。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	科目ガイダンス、セクシュアリティ			講義	
2	女性のライフステージ各期における看護			講義	
3	ヘルスプロモーション			講義	
4	リプロダクティグヘルス/ライツ			講義	
5	母性とは/母子関係と家族発達、女性・家族のライフサイクル			講義	
6	母性看護のあり方/母性看護における安全・事故防止			講義	
7	母性看護における倫理			講義	
8	母性看護の歴史的変遷と現状			講義	
9	母性看護の対象を取り巻く環境			講義	
10	フィールドワークの実際①			実習	
11	フィールドワークの実際②			実習	
12	フィールドワーク①			発表	
13	フィールドワーク②			発表	
14	リプロダクティグヘルスケア/まとめ			講義	
15	試験			テスト	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座: 専門Ⅱ-母性看護学概論-母性看護学[1], 医学書院				・筆記試験 ・レポート ・グループワーク発表 ・出席状況 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・国民の動向					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
母性看護学方法論Ⅰ		非常勤講師・専任教員		医師・看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		45時間／2単位／23回		講義・演習・GW・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 周産期の生理的特徴を理解し、周産期における健康保持・増進及び健康問題に関する援助方法を習得する。					
【目標】					
1. 妊婦・分娩・産褥期および新生児の正常な生理的変化が理解できる。					
2. 妊婦・分娩・褥婦・新生児およびその家族の心理的・社会的特徴が理解できる。					
3. 妊娠・分娩・産褥期および新生児期の援助方法が習得できる。					
4. 周産期において健康問題をかかえる人々への援助方法が理解できる。					
5. 母子保健医療福祉における社会資源について学び、その活用方法が理解できる。					
6. 自己の母性・父性意識を高めることができる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	妊娠初期の看護			講義	事前練習
2	妊娠中期の看護			講義	
3	妊娠後期の看護			講義	
4	妊娠期の看護技術(レオポルド触診法、腹囲・子宮底測定、妊婦体験、乳頭ケア)			演習	
5	分娩第1期の看護			講義	
6	分娩第2・第3期の看護			講義	
7	分娩第4期の看護			講義・演習	
8	産褥期におけるアセスメント①(産褥0日～1日目)			講義	
9	産褥期におけるアセスメント②(産褥2日～3日目)			講義	
10	産褥期におけるアセスメント③(産褥4日～5日目)			講義	
11	産褥期におけるアセスメント④(退院～1か月健診)			講義	
12	産褥期における看護技術(乳房・乳頭マッサージ、子宮底測定、産褥体操)			講義	
13	試験			テスト	
14	新生児期における看護①(出生直後)			講義	
15	新生児期における看護②(早期新生児期)			講義	
16	新生児期における看護③(生後28日まで)			講義	
17	沐浴演習			演習	
18	妊娠・分娩・産褥・新生児期に異常がある対象への看護			講義	
19	妊娠・分娩・産褥・新生児期に異常がある対象のアセスメント①			GW	
20	妊娠・分娩・産褥・新生児期に異常がある対象のアセスメント②			発表	
21	妊娠・分娩・産褥・新生児期に異常がある対象のアセスメント③まとめ			講義	
22	不妊治療と看護			講義	
23	試験			テスト	
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座: 専門Ⅱ-母性看護学各論-母性看護学[2], 医学書院 ・カラー写真で学ぶ周産期の看護技術 第2版, 医歯薬出版				・筆記試験 ・レポート ・グループワーク ・出席状況 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野 I	専門分野 II	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
母性看護学方法論 II		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
3年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・ワーク・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 紙上事例による看護過程の展開を通して、母性看護の具体的な援助方法を習得すると共に、健康に働きかける看護の在り方を学ぶ。					
【目標】 1. 紙上事例を用い、対象に応じた個別的な看護過程の展開方法を身につける。 2. シミュレーション学習を通じ、母性看護における基礎的知識・技術・態度の統合ができる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	科目ガイダンス			講義・個人ワーク	
2	看護過程初期計画の立案①(関連図、看護計画作成「情報収集とアセスメント」)			個人ワーク	
3	看護過程初期計画の立案②(関連図、看護計画作成)			個人ワーク	
4	看護過程の展開①(優先順位、目標設定、指導計画作成)			GW	
5	看護過程の展開②(優先順位、目標設定、指導計画作成)			GW	
6	看護過程の展開③(優先順位、目標設定、指導計画作成)			GW	
7	看護過程の展開①(教育支援ロールプレイ発表)			発表	
8	看護過程の展開②(教育支援ロールプレイ発表)			発表	
9	統合シミュレーション学習①(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期におけるアセスメント)			GW	
10	統合シミュレーション学習②(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期におけるアセスメント)			GW	
11	統合シミュレーション学習③(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期におけるアセスメント)			GW	
12	統合シミュレーション学習④(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期におけるアセスメント)			GW	
13	妊婦・分娩・産褥・新生児看護技術①			発表	
14	妊婦・分娩・産褥・新生児看護技術②			発表	
15	看護過程の展開まとめ			講義	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座: 専門 II -母性看護学各論-母性看護学[2], 医学書院 ・カラー写真で学ぶ周産期の看護技術 第2版, 医歯薬出版				・レポート ・発表	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野 I	専門分野 II	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
精神看護学概論		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】					
精神看護学の位置づけ、精神看護の意義、目的、対象、機能と役割を学ぶ。					
心の構造・働きや発達を理解し、精神の健康の保持・増進のための支援法を学ぶ。					
わが国の精神保健福祉制度を学び、人権・福祉・精神保健・地域社会とのあり方を学ぶ。					
【目標】					
1. 精神看護の目的・意義、対象、機能と役割を理解する。					
2. 人間の心を見る視点、そのはたらきやストレスの影響、心の防衛機能、その危機と回復など、心のありようを理解する。					
3. 人格の発達を対象関係論から理解する。					
4. ライフサイクルにおける精神の健康と各期の特徴と危機を理解する。					
5. 現代社会における心のありよう、親や子どもの置かれている状況を理解し、その問題点を考える。					
6. 精神保健の歴史の変遷から精神のに障害をもつ人々の敵視的処遇、法制度を知り、精神障害者の生きにくさを理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	「精神看護学」で学ぶこと			講義	
2	暮らしの場と精神(心)の健康①(学校・職場・仕事と精神の健康)			講義	
3	暮らしの場と精神(心)の健康②(地域における生活と精神の健康)			講義	
4	精神(心)の捉え方①(脳の構造と認知機能)			講義	
5	精神(心)の捉え方②(精神の構造と働き)			講義	
6	精神(心)の発達に関する主要な考え方①(発達理論・愛着理論)			講義	
7	精神(心)の発達に関する主要な考え方②(マズローの欲求5段階・認知発達理論)			講義	
8	精神(心)の危機状況と精神保健			講義	
9	家族と精神(心)の健康			講義	
10	現代社会と精神(心)の健康①(現代社会の特徴)			講義	
11	現代社会と精神(心)の健康②(精神保健の主な問題)			講義	
12	精神医療の歴史			講義	
13	精神障害をもつ人を守る法・制度			講義	
14	精神保健福祉法における医療の形態と患者の処置			講義	
15	試験			テスト	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・新体系看護学全書:精神看護学①-精神看護学概論-精神保健-,メデカルフレンド社 ・系統看護学講座:精神看護学①-精神看護の基礎-,医学書院 ・系統看護学講座:精神看護学②-精神看護の展開-,医学書院				・筆記試験 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・学生のための精神看護学,医学書院 ・情緒発達と看護の基本,メディカ出版 ・精神看護学ノート,医学書院 ・国民衛生の動向					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
精神看護学方法論Ⅰ		非常勤講師・専任教員		看護師・看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		45時間／2単位／23回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 精神の障害のある対象の精神症状や状態像、治療法を学び、その対象が体験している世界を知り、精神障害者への理解を深め、援助の視点を学ぶ。					
【目標】 1. 精神に障害をもつ人々の生活のしづらさに共感でき、精神の障害を医学的側面、心理的側面から理解できる。 2. 精神症状や状態像によってもたらされる生活行動のリズムの乱れや生活のしづらさを理解し、必要な看護が理解できる。 3. 精神を障害された対象の治療的環境と、その環境の特性を理解し、看護の方法が理解できる。 4. 精神科領域の検査・治療に伴う看護師の役割を理解する。 5. 医療状況の急激な変化に伴い、患者・家族の心理・社会的ニーズに対応するための知識や技術の必要性を理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	精神障害を持つ人の看護			講義	
2	症状看護①			講義	
3	症状看護②			講義	
4	症状看護③			講義	
5	統合失調症の看護①			講義	
6	統合失調症の看護②			講義	
7	気分障害の患者の看護①			講義	
8	気分障害の患者の看護②			講義	
9	嗜癖(アルコール依存)のある患者の看護			講義	
10	パーソナリティ障害、摂食障害、ストレス関連障害の看護			講義	
11	精神科の医療と看護①			講義	
12	精神科の医療と看護②			講義	
13	精神科の医療と看護③			講義	
14	回復を助ける①(回復とは)			講義	
15	回復を助ける②(入院治療の目的と意味、治療的環境)			講義	
16	試験			テスト	
17	精神科看護師の役割①(緊急時の対処)			講義	
18	地域における精神保健と精神看護①			講義	
19	精神科看護師の役割②(安全を守る)			講義	
20	回復を助ける③(治療的環境)			発表	
21	地域における精神保健と精神看護②			講義	
22	精神科以外での精神看護			講義	
23	試験			テスト	
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> 新体系看護学全書:精神看護学②-精神障害を持つ人の看護-メデカルフレンド社 系統看護学講座:精神看護学①-精神看護の基礎-,医学書院 系統看護学講座:精神看護学②-精神看護の展開-,医学書院 				<ul style="list-style-type: none"> 筆記試験 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
<ul style="list-style-type: none"> 学生のための精神看護学,医学書院 生活障害と看護の実践,メディカ出版 精神看護学ノート,医学書院 					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
精神看護学方法論Ⅱ		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／後期	30時間／1単位／15回			講義・ワーク・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 精神看護の基本を学び、治療の人間関係を深めるための精神看護実践能力を身につける。					
【目標】 1. 精神看護で活用する技法を理解する。 2. 援助的な対人関係を学び、患者・看護師関係の発展過程が理解できる。 3. 精神科看護のコミュニケーション技術を学び、看護場面での活用ができる。 4. 精神を障害された対象への看護展開方法が理解できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	精神障害をもつ人への看護援助の展開①			講義・GW	
2	精神障害をもつ人への看護援助の展開②			講義・GW	
3	看護過程①(統合失調症患者/双極性障害患者)			個人ワーク	
4	看護過程②			個人ワーク	
5	看護過程③			個人ワーク	
6	看護過程④			発表	
7	看護過程⑤			GW	
8	看護過程⑥			GW	
9	看護過程⑦			GW	
10	看護過程⑧			GW	
11	看護過程⑨			GW	
12	看護過程⑩			GW	
13	看護過程⑪			発表	
14	看護過程⑫			発表	
15	看護過程⑬			発表	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> 新体系看護学全書:精神看護学②-精神障害を持つ人の看護-メヂカルフレンド社 系統看護学講座:精神看護学①-精神看護の基礎-, 医学書院 系統看護学講座:精神看護学②-精神看護の展開-, 医学書院 				<ul style="list-style-type: none"> レポート 発表 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
<ul style="list-style-type: none"> 学生のための精神看護学, 医学書院 生活障害と看護の実践, メディカ出版 精神看護学ノート, 医学書院 					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
在宅看護概論		非常勤講師・専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 在宅看護の歴史の変遷を踏まえ、在宅看護の概念と対象・場を理解し、在宅看護の役割・機能を学ぶ。					
【目標】 1. 社会のニーズにともなう在宅ケア制度の変遷が理解できる。 2. 地域で療養する対象者とその家族のニーズが理解できる。 3. 在宅看護の意義と必要性が理解できる。 4. 在宅看護に関連する社会資源の理解とそれに関わる職種と連携の必要性について理解できる。 5. 保健・医療・福祉サービスを提供するチームの一員として、看護者の役割・機能が理解できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	在宅看護の特徴			講義	
2	在宅療養を必要とする人達①			講義	
3	在宅療養を必要とする人達②(訪問看護の対象者)			講義	
4	在宅療養を必要とする人達③(在宅看護の特性)			講義	
5	在宅療養を必要とする人達④			講義	
6	在宅療養を必要とする人達⑤(家族の理解と家族を対象とした看護)			講義	
7	在宅ケアを支える制度と社会資源			講義	
8	在宅ケア支援マップ、社会保障制度①、在宅医療と社会制度①			講義	
9	社会保障制度②、在宅医療と社会制度②			講義	
10	社会保障制度③、在宅医療と社会制度③			講義	
11	地域で生活する身体障害をもつ人々			講義	
12	地域包括ケアシステムの概要			講義	
13	ケアマネジメント～暮らしを支える～			講義	
14	認知症サポーター養成講座			講義	
15	試験			テスト	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・地域療養を支えるケア-在宅看護論-, メディカ出版				・筆記試験 ・レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・系統看護学講座:在宅看護論, 医学書院					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
在宅看護方法論Ⅰ		非常勤講師・専任教員		看護師・看護教員	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	45時間／2単位／23回			講義・演習・GW	
講義の目的と目標					
【目的】 在宅看護に必要な看護援助を学び、対象の抱えるニーズを把握し、セルフケア能力を高めるための支援と生活の質(QOL)の維持・向上に向けての支援方法を学ぶ。					
【目標】 1. 在宅看護を支える訪問看護の目的、制度、実施機関、法的責任及び訪問看護師の役割を理解する。 2. 対象の日常生活と家族支援の視点に基づいた支援活動が理解できる。 3. 訪問看護に必要な基礎的な看護技術について理解できる。 4. 対象に応じた日常生活の援助技術の工夫が考えられる。 5. 療養者の生活の場において看護を提供する者としての態度を養う。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	訪問看護とは			講義	
2	在宅ケアを支える訪問看護ステーション			講義	
3	在宅における事例①(脳卒中後遺症のある療養者①)			講義	
4	在宅における事例②(脳卒中後遺症のある療養者②)			講義	
5	在宅における事例③(難病を抱える療養者①)			講義	
6	在宅における事例④(難病を抱える療養者②)			講義	
7	試験			テスト	
8	在宅酸素療法①			演習	
9	在宅酸素療法②			演習	
10	在宅看護における看取り			講義	
11	エンゼルケア			講義	
12	在宅での事例展開(看取り)			講義	
13	在宅における事例⑤(認知症のある療養者の看護①)			講義	
14	在宅における事例⑥(認知症のある療養者の看護②)			講義	
15	事故			講義	
16	障害者総合支援法			GW	
17	在宅酸素と在宅人工呼吸器			講義	
18	精神①			講義	
19	精神②			講義	
20	障害を持つ療養者と子どもの看護①(母親)			講義	
21	障害を持つ療養者と子どもの看護②(関わり)			講義	
22	障害を持つ療養者と子どもの看護③(まとめ)			講義	
23	試験			テスト	
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域療養を支えるケア-在宅看護論-, メディカ出版 ・根拠がわかる在宅看護技術 第2版, メヂカルフレンド社 ・系統看護学講座:在宅看護論, 医学書院 				<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 ・レポート 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
在宅看護方法論Ⅱ		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
3年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・ワーク・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 事例を通して看護過程を学び、個別的な在宅ケア支援のための保健・医療・福祉のネットワークの活用方法・継続看護の方法を学ぶ。					
【目標】 1. 訪問看護の展開のプロセスが理解できる。 2. 紙上事例における看護過程の展開を通し、個々の対象の特性、在宅ケア支援のための保健・医療・福祉のネットワークの活用方法、看護の継続の方法の実際が理解できる。 3. シミュレーション学習を通し、在宅看護における基礎的知識・技術・態度の統合ができる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	在宅看護過程の目的、特徴、意義、看護過程の展開①			講義	
2	在宅看護過程の目的、特徴、意義、看護過程の展開②			講義	
3	看護過程アセスメント①			GW	
4	看護過程アセスメント②			GW	
5	関連図、Ⅲ-7、看護計画①			個人ワーク	
6	関連図、Ⅲ-7、看護計画②			個人ワーク	
7	関連図、Ⅲ-7、看護計画③			個人ワーク	
8	関連図、Ⅲ-7、看護計画④			GW	
9	関連図、Ⅲ-7、看護計画⑤			GW	
10	支援マップ、指導案①			GW	
11	支援マップ、指導案②			GW	
12	指導案①			発表	
13	指導案②			発表	
14	国家試験①			講義	
15	国家試験②			講義	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域療養を支えるケア-在宅看護論-, メディカ出版 ・根拠がわかる在宅看護技術 第2版, メヂカルフレンド社 ・系統看護学講座:在宅看護論, 医学書院 				<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・発表 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
看護活動と管理		非常勤講師・専任教員		看護師・看護教員	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
3年次／通年	30時間／1単位／15回			講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 看護活動における看護管理と災害看護を理解し、国際的な視野から看護について学ぶ。					
【目標】 1. 病院の組織や機能などの基本的成り立ちについて学び、看護部門の位置づけを理解する。 2. 看護管理の構造を学び、看護サービスの提供システムや基本的役割を理解する。 3. 対象の安全管理の視点から、災害看護の意義と役割について理解する。 4. 国際的視野から国際看護の活動の意義と役割について理解する。 5. 看護活動を学び、チーム医療の中でメンバーシップとリーダーシップの意義と役割が理解できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	科目ガイダンス、看護管理とは			講義	
2	看護ケアのマネジメント			講義	
3	キャリアマネジメント履歴書の書き方			講義	
4	看護サービスのマネジメント			講義	
5	施設・設備環境のマネジメント			講義	
6	マネジメントに必要な知識と技術			講義	
7	看護活動と管理①(災害看護)			講義	
8	看護活動と管理②(災害看護)			講義	
9	看護活動と管理③(災害看護)			講義	
10	看護活動と管理④(トリアージ演習)			演習	
11	看護活動と管理⑤(トリアージ演習)			演習	
12	看護活動と管理⑥(トリアージ演習)			演習	
13	看護活動と管理⑧(国際看護)			講義	
14	看護活動と管理⑨(国際看護)			講義	
15	試験			テスト	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・新体系看護学全書別巻:看護管理・看護研究・看護制度, MC, メディカルフレンド社				・筆記試験 ・演習	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
医療安全		非常勤講師		看護師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
3年次／通年		30時間／1単位／15回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 医療安全の視点から、安全な医療・看護を提供する意義と役割について理解を深め、倫理的判断能力・リスクマネジメント能力を養う。					
【目標】 1. 医療安全の意義について学び、安全な医療・看護の実践について理解できる。 2. 医療事故防止に関する、看護師の責任と倫理的判断能力を身につけることができる。 3. 医療事故予防のための医療と看護システムについて理解できる。 4. 自己分析手法を学び、医療事故事例の分析・シュミレーションを通してリスクマネジメント能力を養う。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	科目ガイダンス、医療安全とは			講義	
2	医療安全の経緯、医療を取り巻く社会			講義	
3	なぜ医療安全を学ぶのか、医療安全システム			講義	
4	看護業務に潜む主なリスク			講義	
5	看護業務と法的責任(倫理と責務)			講義	
6	医療安全システム、エラープルーフ			講義	
7	安全な医療機器の取り扱い			講義	
8	医療従事者の安全管理			講義	
9	感染対策と患者からの暴力対策			講義	
10	医療事故分析(4M・4E・Shell)			講義	
11	医療事故分析(RCA)			講義	
12	KYTとは、KYT演習について			講義	
13	KYT演習			演習	
14	KYT演習			演習	
15	試験			テスト	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・松下由美子:医療安全, MC, メディカ出版				・筆記試験 ・レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・嶋森好子:医療安全とリスクマネジメント, ヌーベルヒロカワ ・川村治子:医療安全ワークブック, 医学書院					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
看護技術の統合		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
3年次／通年		30時間／1単位／15回		講義・ワーク・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 看護の対象の特性・状況をアセスメントし、必要な援助を実践する基礎的能力を習得する。					
【目標】 1. 看護の対象の心情を把握し、意図的にコミュニケーションができる。 2. 看護の対象の特性をとらえ、優先順位を考慮したアセスメントができる。 3. 対象の安全を考慮し、統合した看護技術の実践ができる。 4. 統合した看護実践を振り返り、自己の課題を明確にできる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	科目ガイダンス、自己の課題、事例			講義	
2	小テスト、個人ワーク(看護計画)			個人ワーク	
3	個人ワーク			個人ワーク	
4	グループワーク			GW	
5	グループワーク、演習計画作成			GW	
6	グループワーク演習			GW	
7	グループワーク演習			GW	
8	グループワーク演習			GW	
9	直前ガイダンス、技術練習			講義	
10	OSCE			テスト	
11	OSCE			テスト	
12	OSCE			テスト	
13	OSCE			テスト	
14	まとめ、発表会			発表	
15	まとめ、発表会			発表	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・講師にてテキスト作成				・OSCE(客観的臨床能力試験) ・シナリオ学力試験 ・リフレクションシート ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・中村恵子:看護OSCE, メヂカルフレンド社					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
卒業論文		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
3年次／通年		30時間／1単位／15回		講義・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 事例研究に必要な基本的な知識及び態度について学び、実践してきた看護について事例研究を通して、科学的根拠や看護理論と照らし合わせ、論文としてまとめることにより、よりよい看護実践が追究できる態度を養う。					
【目標】 1. 事例研究の方法及びプロセスを理解できる。 2. 研究に必要な基本的な知識、技術及び態度を身につけることができる。 3. 実践した看護を客観的・科学的・論理的にとらえ、論文としてまとめることができる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	科目ガイダンス			講義	事前発表練習
2	看護研究のテーマとプロセス			講義	
3	倫理的配慮、研究計画書の作成			講義	
4	計画書作成、文献検索			講義	
5	ガイダンス			講義	
6	発表スライド作成、発表ポイントについて			講義	
7	スライド(ポスター)作成			講義	
8	ポスター、発表原稿作成、役割分担			講義	
9	ポスター、発表原稿作成			講義	
10	リハーサル、発表準備			講義	
11	発表練習			講義	
12	発表会			発表	
13	発表会			発表	
14	発表会			発表	
15	発表会			発表	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・松本孚他:看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 第2版, 照林社				・発表 ・論文	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・沢禮子:基礎看護学Ⅰ-看護学概論-, 金原出版 ・川村佐和子:看護研究, メディカ出版 ・矢野正子:看護管理・看護研究・看護制度, メヂカルフレンド社 ・高橋百合子:看護学生のためのケース・スタディ 第3版, メヂカルフレンド社					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習	
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など		
基礎看護学実習Ⅰ		企業実習		有無	有	
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類		
1年次／後期	45時間／1単位／7日			実習		
実習の目的と目標 【目的】 看護における活動の場および患者の生活環境を理解し、健康障害により入院生活を余儀なくされている対象を知り、日常生活の援助を実施する。						
【目標】 1. 看護の場である病院および病棟の構造について理解できる。 2. 入院患者の生活環境が理解できる。 3. 人間関係形成のためのコミュニケーションを図ることができる。 4. 対象の身体的、精神的、社会的側面の情報収集ができる。 5. 対象の安全・安楽に配慮して日常生活の援助を実施し、振り返り、評価ができる。 6. 看護学生として適切な観察・記録・報告ができる。 7. 自主的に学ぶ行動ができる。						
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)	
1	①病院ガイダンス ②病院内見学			実習	その他時間 実習前ガイダンス 事前学習	
2	③病棟ガイダンス ④病棟内見学 ⑤カンファレンス ①看護師シャドーイング ②受持ち患者の選定 ③受持ち患者とのコミュニケーション ④対象の身体的・精神的・社会的側面の情報収集 ⑥指導者への実施報告 ⑦カンファレンス			実習		
3-6	①行動計画の発表 ②バイタルサインの測定、報告 ③対象のフィジカルアセスメント ④対象の日常生活援助の見学・実施 ⑤対象の身体的、精神的、社会的側面の情報収集 ⑥受け持ち患者とのコミュニケーション ⑦指導者への実施報告 ⑧カンファレンス			実習		
7	①行動計画の発表 ②バイタルサインの測定、報告 ③対象のフィジカルアセスメント ④対象の日常生活援助の実施 ⑤対象の身体的、精神的、社会的側面の情報収集 ⑥受け持ち患者とのコミュニケーション ⑦指導者への実習報告 ⑧病棟へ実習での学び報告会 ⑨カンファレンス			実習		
使用テキスト				評価方法		
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習		
参考図書						

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習	
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など		
基礎看護学実習Ⅱ		企業実習		有無	有	
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類		
2年次／前期	90時間／2単位／12日			実習		
実習の目的と目標 【目的】 基礎看護学で学んだ知識・技術・態度を統合し、看護過程展開の基本を習得する。 【目標】 1. 対象を総合的に理解し、看護問題を抽出できる。 2. 対象に必要な援助を計画し、実践および評価できる。 3. 保健・医療・福祉における看護の役割を理解できる。 4. 自主的に学ぶ行動ができる。						
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)	
1	①病棟ガイダンス ②看護師シャドーイング ③受持ち患者の選定 ④受持ち患者とのコミュニケーション ⑤対象者の身体的・精神的・社会的側面の情報収集			実習	その他時間 実習前ガイダンス 事前学習	
2-3	①行動計画の発表 ②バイタルサインの測定、報告 ③対象のフィジカルアセスメント ④対象の日常生活援助の見学・実施 ⑤対象の身体的、精神的、社会的側面の情報収集 ⑥受け持ち患者とのコミュニケーション ⑦指導者への実施報告 ⑧カンファレンス			実習		
4	①情報の整理、解釈、分析及び文献検索 ②不足情報の明確化 ③日常生活援助の技術練習			学内実習		
5-6	①行動計画の発表 ②バイタルサインの測定、報告 ③対象のフィジカルアセスメント ④対象の日常生活援助の見学・実施 ⑤対象の身体的、精神的、社会的側面の情報収集 ⑥受け持ち患者とのコミュニケーション ⑦指導者への実施報告 ⑧カンファレンス			実習		
7	①情報の整理、解釈、分析及び文献検索 ②関連図、看護計画の明確化 ③看護問題の優先順位の決定 ④看護計画の立案 ⑤日常生活援助の技術練習			学内実習		
8-12	①行動計画の発表 ②バイタルサインの測定、報告 ③対象のフィジカルアセスメント ④対象の日常生活援助の見学・実施 ⑤対象の身体的、精神的、社会的側面の情報収集 ⑥受け持ち患者とのコミュニケーション ⑦指導者への実施報告 ⑧ケースカンファレンス ⑨病棟報告会 ⑩カンファレンス			実習		
使用テキスト				評価方法		
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習		
参考図書						

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
成人看護学実習Ⅰ-1		企業実習		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類	
2年次／後期	180時間／4単位／4日(23日中) 注)成人看護学実習Ⅰ-1,2併せて単位時間			実習	
実習の目的と目標 【目的】 成人期にある対象の健康の保持増進と、疾病予防の活動と保健医療福祉チームにおけるの看護の役割を理解する。					
【目標】 1. 成人期における対象の健康の保持増進と疾病予防の活動の実際を理解できる。 2. 健診(検診)センターにおける看護の役割を理解できる。					
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)
1-3	健診(検診)センターで行われている健康管理の理解 ①健診(検診)センターの機能と役割等ガイダンス ②人間ドッグ・健診、住民検診・企業検診等の見学 ③健康相談・特定保健指導の見学 ④カンファレンス ⑤指導者との実習での学びの報告会			実習	その他時間 実習前ガイダンス 事前学習
4	発表会 ①各実習施設の学びの共有 ②国民衛生の現状と動向			学内実習	
使用テキスト				評価方法	
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
成人看護学実習Ⅰ-2		企業実習		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類	
2年次／後期	180時間／4単位／19日(23日中) 注)成人看護学実習Ⅰ-1,2併せて単位時間			実習	
実習の目的と目標					
【目的】 成人期における健康問題を理解し、慢性期・終末期の経過をたどる対象とその家族への看護を実践する能力を養う。					
【目標】 1. 慢性的な疾病コントロールの経過・終末期の経過をたどる対象とその家族への看護を実践する能力を養う。 2. 対象とその家族のニーズを把握し、対象に応じた看護計画を立案し、実践できる。 3. 対象とその家族を取り巻く保健医療福祉チーム間の連携の必要性を学び、必要な社会資源を考え、活用することができる。 4. 慢性期・終末期における看護の役割を学ぶ。 5. 透析療法を受ける対象への看護の役割を学ぶ。					
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)
1	①病棟ガイダンス ②受持ち患者の選定 ③受持ち患者とのコミュニケーション ④日常生活要素の情報収集 ⑤疾患に関する情報収集 ⑥カンファレンスおよび記録			実習	その他時間 実習前ガイダンス 事前学習
2	①受持ち患者とのコミュニケーション ②日常生活要素の情報収集 ③疾患、症状の情報収集 ④バイタルサインの観察・報告 ⑤行動計画実施表の整理 ⑥情報の解釈・分析			実習	
3-4	①行動計画実施表の整理 ②情報の解釈・分析 ③看護問題の抽出 ④看護目標と計画立案 ⑤看護計画に基づいた実施 ⑥実施後の評価と修正 ⑦透析室看護見学 ⑧カンファレンスおよび記録			実習	
5	①看護計画の検討			学内実習	
6-11	①ケースカンファレンス ②看護問題の修正・追加 ③立案した看護計画の実施 ④実施後の評価修正 ⑤カンファレンス			実習	
12	①看護実践における技術の再確認 ②指導案及び媒体の作成 ③終末期の紙上事例のグループワーク			学内実習	
14-18	①ケースカンファレンス ②看護問題の修正・追加 ③立案した看護計画の実施 ④実施後の評価修正 ⑤カンファレンスおよび記録 ⑥実習の学びの報告会			実習	
19	①受持ち事例についてプレゼンテーション			学内実習	
使用テキスト				評価方法	
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習	
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など		
成人看護学実習Ⅱ		企業実習		有無	有	
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類		
3年次／通年	90時間／2単位／12日			実習		
実習の目的と目標 【目的】 成人期における健康問題を理解し、周手術期にある対象とその家族への看護を実践する能力を養う。						
【目標】 1. 周手術期にある対象のその家族を総合的に理解できる。 2. 対象とその家族のニーズを把握し、対象に応じた看護計画を立案し、実践できる。 3. 対象とその家族を取り巻く医療チームとしての看護の役割や保健医療福祉チーム間での連携を理解し、活用することができる。 4. 手術室、集中治療室、救急外来室の環境を理解し、看護の役割を理解できる。 5. 実習をとおして、自己の看護観を養うことができる。						
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)	
1	①病棟・救急室・手術室・集中治療室ガイダンス			実習	その他時間 実習前ガイダンス 事前学習	
2-4	②カンファレンスおよび記録 集中治療室の特徴と集中治療を受ける患者への看護の役割の理解 ①集中治療室の見学 ②患者および家族への看護の見学・体験 ③カンファレンスおよび記録 手術室の環境管理と手術を受ける患者に対する看護の役割、手術中の看護の理解 ①清潔野・不潔野の区別 ②麻酔導入時の看護の見学 ③術中の呼吸・循環管理の見学 ④直接介助・間接介助の見学 ⑤麻酔終了時の看護 ⑥病棟から手術室、手術室から病棟への申し送りの見学 ⑦カンファレンスおよび記録 救急外来室の特徴と救急患者への看護の役割の理解 ①救急外来室の見学 ②初療室における患者の受け入れ見学 ③救急患者やその家族への看護の見学 ④カンファレンスおよび記録			実習		
5	①受持ち患者の選定 ②受持ち患者とのコミュニケーション及び情報収集 ③受持ち患者のケアの見学			実習		
6-7	①行動計画表の発表及び実施 ②受持ち患者とのコミュニケーション及び情報収集 ③患者の状態に合わせた援助及び観察 ④情報収集の整理及び解釈・分析 ⑤看護上の問題の明確化・計画立案 ⑥カンファレンスおよび記録 ⑦ケースカンファレンス			実習		
8-10	①行動計画表の発表及び看護計画に基づく看護実施 ②再アセスメント及び看護の問題の修正・追加 ③社会復帰に向けて患者背景の把握、社会資源の理解及び情報提供 ④実施した看護の評価・修正 ⑤病棟で行われる特殊検査や治療の理解 ⑥カンファレンスおよび記録 ⑦成人看護学実習の最終反省及び振り返り			実習		
11	①記録の修正 ②症例プレゼンテーションの準備			学内実習		
12	①症例プレゼンテーション ②学生間でのロールプレイ			学内実習		
使用テキスト				評価方法		
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習		
参考図書						

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
老年看護学実習Ⅰ		企業実習		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類	
2年次／後期	90時間／2単位／12日			実習	
実習の目的と目標 【目的】 健康障害のある高齢者・家族を理解し、ADL・QOLの維持・向上に向けた看護の基礎的能力を養う。					
【目標】 1. 老年期の身体的・精神的・社会的変化が、高齢者の生活に及ぼす影響を知る。 2. 高齢者の生活過程を整え、ADL拡大に向けた基礎的援助技術を学ぶ。 3. 高齢者のもてる力に焦点をあてた日常生活の援助方法を学ぶ。 4. 高齢者を支える保健医療福祉について理解し、多職種との連携の中で看護の役割を学ぶ。					
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)
1	①施設ガイダンス ②受持ち入所者の選定と紹介 ③受持ち入所者とのコミュニケーション ④受持ち入所者に関する情報収集 ⑤カンファレンスおよび記録			実習	その他時間 実習前ガイダンス 事前学習
2-3	①行動計画の発表 ②カルテやコミュニケーション・援助場面を通して受持ち入所者の情報収集 ③情報の解釈・分析、看護の焦点の明確化 ④受持ち入所者のADL評価 ⑤受持ち入所者への日常生活援助の実施 ⑥理学療法士または作業療法士によるトランスファーのデモンストレーション ⑦カンファレンスおよび記録			実習	
4	①行動計画の発表 ②行動計画に基づいた援助の実践 ③ケースカンファレンス ④看護計画の追加・修正 ⑤グループでアクティビティケアの計画			実習	
5-8	①行動計画発表と看護計画に基づいた看護の実施 ②実施した看護の評価と看護計画の追加・修正 ③グループでアクティビティケアの企画・実施 ④カンファレンスおよび記録			実習	
9-11	①行動計画発表と看護計画に基づいた看護の実施 ②実施した看護の評価と看護計画の追加・修正 ③通所サービスの見学実習 ④介護老人保健施設における看護師の役割の理解 ⑤受持ち入所者のADL評価 ⑥実習の振り返りと学びの報告会 ⑦カンファレンスおよび記録			実習	
12	①グループ発表			学内実習	
使用テキスト				評価方法	
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
老年看護学実習Ⅱ		企業実習		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類	
3年次／通年	90時間／2単位／12日			実習	
実習の目的と目標 【目的】 健康障害・疾病をもつ高齢者・家族を理解し、適切な援助を提供できる老年看護実践能力を養う。					
【目標】 1. 老年期の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、対象との信頼関係を築くことができる。 2. 高齢者の健康障害・健康レベルを理解し、対象のアセスメントを行いADL、QOLの維持・向上を目指した看護過程の展開ができる。 3. 高齢者を支える保健医療福祉チーム・多職種との連携を学び、継続看護の意義が理解できる。 4. 実習をとおして、自己の看護観を養う。					
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)
1	①病棟ガイダンス・病棟見学 ②受持ち患者の選定			実習	その他時間 実習前ガイダンス 事前学習
2-3	③受持ち患者・家族とのコミュニケーションやカルテ等からの情報収集 ④カンファレンスおよび記録			実習	
4	①行動計画の発表・実施 ②受持ち患者・家族とコミュニケーション			学内実習 実習	
5-6	③バイタルサインの測定・観察・報告 ④日常生活について情報収集 ⑤受持ち患者のADL評価 ⑥情報の解釈・分析、看護の焦点の明確化 ⑦カンファレンスおよび記録				
7-11	①技術練習 ②情報の整理と看護計画の立案			実習	
	①行動計画の発表 ②行動計画に基づいた援助の実践 ③ケースカンファレンス ④再アセスメント、看護計画の追加・修正 ⑤カンファレンスおよび記録				
12	①行動計画発表看護計画に基づいた看護実施 ②再アセスメント、看護計画の追加・修正 ③退院・転院に向けて社会資源の理解及び情報提供 ④病棟で行われる特殊検査や治療の理解 ⑤必要な教育・指導の実施 ⑥カンファレンスおよび記録 ⑦実習の振り返りと学びの報告会			学内実習	
	①事例の共有				
使用テキスト				評価方法	
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
小児看護学実習		企業実習		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類	
3年次／通年	90時間／2単位／12日			実習	
実習の目的と目標 【目的】 小児看護における対象の特徴を理解し、子どもの健全な成長発達を助けると共に、肩甲段階に応じた子どもと家族に必要な援助の実際を学ぶ。					
【目標】 1. 子どもの成長発達の特徴を理解し、基本的日常生活の自立状況に合わせた援助ができる。 2. 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、対象に必要な援助を実践することができる。 3. 小児看護の役割を学び、チームの一員として責任ある態度を身につける。 4. 子どもの安全管理を学ぶ。 5. 小児外来の看護の役割を学ぶ。 6. NICUの看護の役割を学ぶ。 7. 子どもの看護に関心を高め、自己の看護観を深める。					
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)
1-4	保育園実習 ①保育園ガイダンス ②成長発達に応じたコミュニケーション ③基本的生活習慣の観察 ④子どもの安全を守るための環境、保育の実際 ⑤カンファレンスおよび記録 小児発達支援事業所実習 ①事業所ガイダンス ②成長発達に応じたコミュニケーション ③基本的生活習慣と遊びの観察 ④子どもの安全を守るための環境、療育の実際 ⑤カンファレンスおよび記録 小児科外来実習 ①外来ガイダンス ②小児科外来の看護師の役割 ③身体計測・バイタルサインと等の実施 ④プレパレーションの見学と実施 ⑤外来・病棟・地域への継続性の実際 ⑥カンファレンスおよび記録			実習	その他時間 実習前ガイダンス 事前学習
5	①受持ち患児の決定 ②受持ち患児の疾患や年齢に考慮した事前学習			学内実習	
6	①病棟ガイダンス ②受持ち患児、家族とコミュニケーション ③カルテからの情報収集 ④入院患児の処置・ケアの見学 ⑤受持ち患児の日常生活、成長発達の情報から全体像を把握 ⑥収集した情報をアセスメント ⑦カンファレンスおよび記録			実習	
7-11	①行動計画発表 ②バイタルサインの観察、フィジカルアセスメントの実施 ③ディストラクション・プレパレーションの実施 ④成長発達状況に応じた援助の実施 ⑤看護問題の明確化と看護計画の立案 ⑥カンファレンスおよび記録 ⑦ケースカンファレンス ⑧看護計画の見直しと看護計画に基づいた看護実践 ⑨受持ち患児を通して、小児の基本的技術を習得 ⑩医療・保健・福祉・教育の連携の理解			実習	
12	①発表会 ②記録の整理			学内実習	
使用テキスト				評価方法	
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
母性看護学実習		企業実習		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類	
3年次／通年	90時間／2単位／12日			実習	
実習の目的と目標 【目的】 母性看護の対象を理解し、女性の健康に関する活動の実際を見学あるいは実施することで、保健医療福祉チームの一員としての役割を学ぶ。また、周産期における対象の心身の変化を理解、対象および家族に適した看護が実践できる基礎的能力を養う。 【目標】 1. 母性看護の対象と母性各期の特徴が理解できる。 2. 周産期における女性の心身の変化および新生児の生理的变化を見解し、対象を注視にその家族に適した看護が実践できる。 3. 地域・施設の機能と母性看護の役割を理解できる。 4. 母子支援に対する社会資源を知り、母子保健医療福祉におけるサポートシステムが理解できる。 5. 実習をととして、自己の生命観および父性観を育むことができる。					
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)
1	①助産所ガイダンス ②利用者とのコミュニケーション			実習	その他時間 実習前ガイダンス 事前学習
2	③妊娠期・産褥期・育児期に至るまでの継続看護・保健活動の実際			実習	
3	①子育て支援センターガイダンス ②利用者とのコミュニケーション			実習	
4	③退院後の母と子の生活の理解			実習	
5	①診療所の役割と機能 ②不妊専門機関の特徴理解			実習	
6	③継続看護の重要性の理解			実習	
7-9	①産科病棟のガイダンス ②受持ちケースの選定			学内実習	
10	③受持ちケースへの挨拶 ④臨床講義			実習	
11	①母性看護技術シュミレーション			学内実習	
12	①分娩立会い可能なケースの選定 ②分娩経過の把握			実習	
	③個別の看護の実施			実習	
	④分娩見学を通して、生命の尊厳や新しい家族について考える			実習	
	①指導者のもと、セルフケア能力を高めるための支援			実習	
	②アセスメント用紙の整理 ③看護問題・症状・影響因子の抽出			実習	
	④看護問題解決へ向けての支援計画 ⑤支援実施			実習	
	⑥実施した看護の評価・修正 ⑦情報の追加			実習	
	①受持ち新生児の選定 ②受持ち新生児の一版状態の観察			実習	
	③日常生活の援助 ④諸検査の把握			実習	
	⑤出征直後の新生児の取扱い			実習	
	①受持ち妊婦の選定 ②妊娠各期に応じたアセスメント			実習	
	③妊婦診察の援助 ④個別指導の見学			実習	
	⑤集団指導への参加			実習	
	①発表会 ②記録生理・まとめ			学内実習	
使用テキスト				評価方法	
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
精神看護学実習		企業実習		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類	
3年次／通年	90時間／2単位／12日			実習	
実習の目的と目標 【目的】 精神に障害のある人との関わりをとおして、対象の特徴や対象を取り巻く環境を理解し、精神的健康の回復への援助を実践できる基礎的能力を養う。					
【目標】 1. 精神に障害をもつ患者の特徴を理解する。 2. 対象の治療的環境を知り、精神科の特性について理解する。 3. 対象との相互作用の中で自己理解、他者理解に努め、看護師としての自分自身をみつめることができる。 4. 受け持ち患者のニーズを把握し、個別性をふまえた看護過程の展開ができる。 5. 精神科病院および地域で行われている保健医療福祉のアプローチについて知り、多職種との連携の必要性やチームの一員としての看護の役割と機能について学ぶ。					
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)
1	①病棟ガイダンス ②受持ち患者の選定			実習	その他時間 実習前ガイダンス 事前学習
2-3	③コミュニケーション及び情報収集			実習	
4	①受持ち患者とのコミュニケーション ②情報収集及び解釈・分析			学内実習 実習	
5-6	③看護上の問題の明確化 ④セルフケア能力に合わせた日常生活援助				
7-8	⑤プロセスレコードの記録 ⑥プロセスレコードの検討			実習	
9-10	①技術練習・文献学習			実習	
11	①看護計画の立案 ②立案した計画に基づいた実践				
12	③実施した計画の評価・修正			学内実習	
	①受持ち患者とのコミュニケーション、接し方の振り返り				
	②再アセスメント後、看護問題や優先順位を見直す				
	③立案した計画に基づいた実践				
	④実施した計画の評価・修正 ⑤社会資源の種類と活用				
	①再アセスメント後、看護問題や優先順位を見直す				
	②立案した計画に基づいた実践 ③実施した計画の評価・修正				
	④社会復帰に向けて患者背景の把握 ⑥病棟交換実習				
	①再アセスメント後、看護問題や優先順位を見直す				
	②立案した計画に基づいた実践 ③実施した計画の評価・修正				
	④社会復帰に向けて患者背景の把握				
	⑥病棟交換実習 ⑦最終報告会				
	①プロセスレコード検討会 ②受持ち患者の看護のまとめ発表				
使用テキスト				評価方法	
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習	
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など		
在宅看護論実習		企業実習		有無	有	
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類		
3年次／通年	90時間／2単位／12日			実習		
実習の目的と目標 【目的】 訪問看護ステーションおよび居宅介護支援事業所の役割・機能を理解し、在宅療養者のもつ療養上の課題を知り、療養者および家族のQOL向上へ向けて看護者の果たす役割について学ぶ。						
【目標】 1. 訪問看護ステーションおよび居宅介護支援事業所の組織・機能、活動の概略について理解できる。 2. 在宅療養者とその家族がもつ療養上の問題を把握し、QOL向上へ向けた個別的な在宅看護の展開方法を学ぶ。 3. 在宅療養者の健康問題の種類とレベルに合わせた、保健医療福祉の連携と社会資源の活用方法が理解できる。 4. 在宅看護に必要な看護の責任・倫理的配慮が理解できる。						
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)	
1-4	①居宅介護支援事業所の組織・機能、活動の概略の理解 ②地域包括支援センターの機能と役割、活動の実際 ③障害者自立支援事業所の機能と役割、活動の実際			見学・実習	その他時間 実習前ガイダンス 事前学習	
5	①訪問看護ステーションガイダンス ②受持ち療養者の選定 ③療養者とのコミュニケーション及び情報収集 ④訪問看護師と同行し援助の見学・実践			実習		
6-7	①行動計画の発表・実施 ②同行訪問 ③受持ち療養者のアセスメント整理、次回訪問時のケア計画 ④受持ち療養者の看護計画の立案 ⑤受持ち療養者の支援マップ作成 ⑥ケースカンファレンス ⑦受持ち療養者の看護過程展開			実習		
8	①グループカンファレンスの実施			学内実習		
9-11	①受持ち療養者の看護計画の修正 ②受持ち療養者の看護計画の立案 ③受持ち療養者の支援マップ作成 ④行動計画の発表・実施 ⑤同行訪問 ⑥受持ち療養者の看護過程展開			実習		
12	①グループ学習内容の発表と討議			学内実習		
使用テキスト				評価方法		
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習		
参考図書						

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	臨地実習
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
統合実習		企業実習		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類	
3年次／後期	90時間／2単位／12日			実習	
実習の目的と目標 【目的】 臨地実習で習得した看護実践を行うための基礎的能力を生かし、複数患者の受け持ちや一勤務帯をととした実習、看護チームの一員としての体験によって知識、技術、態度を統合し、臨床に即した看護実践力を身につける。 【目標】 1. あらゆる発達段階にある対象を統合された存在として理解することができる。 2. 対象の尊厳を守り、複数患者に応じた援助技術を理論的根拠に基づいて安全に実践できる。 3. 複数患者の健康問題を統合的に把握し、健康レベルに応じた看護過程が展開できる。 4. 看護チームのメンバーおよびチームリーダーの役割を理解し、チームメンバーや多職種と連携を図ることができる。 5. 看護管理の実際を知ることにより、保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める。 6. 一勤務帯をととした日勤から夜勤への看護体制や業務内容を理解する。 7. 自己の看護実践能力を高め、主体的に学習し、研鑽する基本的態度を身につける。 8. 統合実習をととして看護観を深め、看護師としての自己の課題を明確にする。					
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)
1-4	①複数の受持ち患者や家族、看護チームメンバー、多職種とのコミュニケーション ②複数の受持ち患者の状況把握・状況判断 ③病棟の計画に沿ってケアを実施 ④複数の患者の看護問題の整理・看護計画の立案 ⑤看護計画の実施・評価 ⑥検査・処置の時間確認及び実施する援助の時間調整			実習	その他時間 実習前ガイダンス 事前学習
5-6	①病棟ガイダンス ②病棟内見学			見学・実習	
7-8	③看護管理の在り方見学 ④地域連携室見学			見学・実習	
9-11	①病棟リーダーの役割や業務内容についてガイダンス ②看護チーム、医師、多職種との調整			見学・実習	
12	③日勤病室担当看護師の業務見学 ④受持ち患者の状況把握・計画の実施 ⑤日勤から夜勤、夜勤から日勤への看護体制、業務内容の理解			学内実習	
	①グループ討議・発表				
使用テキスト				評価方法	
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書					